

第26回

木のある暮らし

だつ たん そ しゃ かい
脱炭素社会
SDGs の実現を
かんが 考えるきっかけに!

木文エッセイ



にゅう せん
入選
さく ひん しゅう
作品集

■ 主催:  一般社団法人
日本木造住宅産業協会

■ 共催:  **住宅金融支援機構**
Japan Housing Finance Agency

■ 後援: 国土交通省・文部科学省・農林水産省・環境省・外務省・朝日学生新聞社

ごあいさつ

一般社団法人日本木造住宅産業協会主催の作文コンクールは、おかげさまで、今年二十六回目を迎えました。小学生の皆さんを対象に、日常生活に身近な「木のある暮らし」をテーマに実施しており、作文への取組を通じて木や森、住まいや街、さらには地球環境にも興味を抱き続けてほしいという願いが込められています。

今年も、全国各地の小学校や特別支援学校、海外の日本人学校、会員企業等を通じて、合計四七九二作品の応募をいただきました。多くの素晴らしい作品に支えられ、この作品集を発刊することができました。これもひとえに、ご指導をいただいた先生方をはじめ、保護者、関係者の皆様のご支援があつてのことと感謝しております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

近年、世界で異常気象が問題となっています。その現象は、二酸化炭素を中心とする温室効果ガスが引き起こす「地球温暖化」が要因となっています。地球温暖化を防ぐため、排出する二酸化炭素の量を減らすことはもちろんですが、「吸収」と「固定」にも期待が寄せられています。皆さんもご存じの通り、木には様々な働きがありますが、その中の一つに「成長過程で二酸化炭素を吸収して炭素を固定する」というものがあります。森の仕組みをしっかりと理解し、適切に木を伐り、使い、植える、そして育てるということを繰り返せば、地球環境の保全と持続可能な社会を目指す、SDGsの実現にもつながります。近年は木の良さや価値が理解されつつあり、住宅に限らず、学校やオフィスビル、病院等の中大規模建築物にも木材が利用されるようになりました。

皆さんから応募いただいた作品には、単に木の持つ効果・効能だけでなく、人や社会に与える影響をつづった作品が増えてきました。家具や玩具等さまざまな木製品との思い出など、幅広い題材の作品が増え、「木のある暮らし」は多岐にわたっています。小学生ならではの純粋な視点と生き活きた表現に溢れており、心を打たれました。どの作品も個性にあふれ、原稿用紙に向かって一生懸命取り組む皆さんの姿が思い浮かびました。コンクールであるが故に受賞作品を選んではおりますが、審査員の先生方も大変頭を悩ませたのではないかと思います。この作品集で紹介できるのは全作品の一部になりますが、「木のある暮らし」の素晴らしさを感じていただけるのではないかと思います。改めて応募いただいた皆さんに心から感謝と敬意を表します。

今を生きる私たちは、いつも木や自然に感謝し、寄り添って生きる未来を作っていかなければなりません。当協会は、人と地球環境に優しい素材である「木」の良さを次世代に伝え、持続可能で豊かな社会の実現を目指していきます。

最後になりますが、本コンクールにご後援いただきました国土交通省、文部科学省、農林水産省、環境省、外務省、住宅金融支援機構、朝日学生新聞社、そして応募いただいた皆さん、支えてくださった保護者、教育委員会をはじめとする学校関係の方々、コンクール実施にご尽力いただいた全ての関係者の皆様重ねて御礼申し上げます。

令和五年十月吉日

一般社団法人 日本木造住宅産業協会

会長 市川 晃



たい かい
第26回

き
木のある暮らし

さくぶん
作文コンクール

にゅう せん
入選
さく ひん しゅう
作品集

※児童の個人情報保護の観点より、受賞者の学校名については明記しておりません。

受賞者一覧

国土交通大臣賞

低学年の部

おじいちゃんのこだわり

石川県 五十嵐 柊奈さん

高学年の部

「木のあるくらし」

ニュージーランド 森田 祥奈さん

文部科学大臣賞

低学年の部

わたしとおじいちゃんの木

愛知県 奥村 あおいさん

高学年の部

家と未来と私

埼玉県 田代 葵彩さん

農林水産大臣賞

低学年の部

はじめてのなえ木うえ

千葉県 山口 明莉さん

高学年の部

思い出はエネルギーになる

神奈川県 徳永 珠羽さん



環境大臣賞

低学年の部

桜守活動～これからも桜を守りたい～

東京都 上條 蒼馬さん

高学年の部

「木」が「木々」になると生まれる魔法

東京都 中島 碧唯さん

外務大臣賞

低学年の部

大切な木につたえたいこと

ニュージーランド 中尾 希さん

高学年の部

僕と将棋

ニュージーランド 柿沼 泰佑さん

住宅金融支援機構理事長賞

低学年の部

「わたしと木のピアノ」

福島県 鈴木 智香子さん

高学年の部

ただ今新築中

福島県 石田 倭士さん





日本木造住宅産業協会会長賞

低学年の部

おじいちゃんの木まくら

千葉県 井口 文乃さん

高学年の部

ひいじいちゃんからの贈り物

広島県 切川 翔太さん

朝日小学生新聞賞



低学年の部

ウッドブロックのえんそうかい

熊本県 酒井 宗佑さん

高学年の部

木がつなぐ素敵なプロジェクト

佐賀県 馬場崎 心さん



審査員特別賞

低学年の部

ゆめのツリーハウス

鹿児島県 野崎 一呂さん

高学年の部

帰り道

静岡県 松井 未緒さん

高学年の部

私の元気になれる場所

千葉県 小寺 伶奈さん



東北ブロック

ケヤキ賞

低学年の部

まきボーラーってなに

宮城県 小野寺 大和さん

ケヤキ賞

高学年の部

私の大好きな森

福島県 鈴木 初香さん



北信越ブロック

マツ賞

低学年の部

まきストーーーーブ！！

福井県 平井 涼葉さん

ユキツバキ賞

高学年の部

木の大切さ

新潟県 田辺 康士郎さん



中部ブロック

ハナノキ賞

低学年の部

ぼくたちの周りの木

愛知県 神谷 昌克さん

ハナノキ賞

高学年の部

自然にやさしい木

愛知県 広沢 彩華さん

北海道ブロック

エゾマツ賞

低学年の部

木を守るために

北海道 児玉 悠心さん

エゾマツ賞

高学年の部

私と家とジューンベリー

北海道 武田 ありすさん



関東ブロック

イチョウ賞

低学年の部

「大磯小学校と共に生きてきた木」

神奈川県 宇野 美咲さん

マキ賞

高学年の部

音楽は木からの贈り物

千葉県 牟田 明哩さん

甲・静岡ブロック

モクセイ賞

低学年の部

「すごく長生きしている梁」

静岡県 川瀬 浩太郎さん

モクセイ賞

高学年の部

木と共存すること

静岡県 佐藤 綾音さん

中国ブロック

モミジ賞

低学年の部

みんなのおうち

広島県 切川 琉誠さん

アカマツ賞

高学年の部

わたしのシンボルツリー

岡山県 笠井 菜摘さん

近畿ブロック

北山杉賞

低学年の部

私の大好きな木

京都府 山川 輝良里さん

クスノキ賞

高学年の部

「私の友達しろちゃんは、ふしぎな木」

兵庫県 小中 香凛さん

九州・沖縄ブロック

クスノキ賞

低学年の部

木があるということ

熊本県 小川 優月さん

つつじ賞

高学年の部

「私の気持ちとパキラの木」

福岡県 濱野 陽咲さん

四国ブロック

マツ賞

低学年の部

さるすべりの木のようせいさん

愛媛県 中川 すみれさん

マツ賞

高学年の部

私の成長を見守ってくれる桜の木

愛媛県 矢野 桜さん

団体の部

最優秀団体賞

大阪府 富田林市立喜志小学校

優秀団体賞

宮崎県 日南市立大窪小学校
愛知県 安城市立安城北部小学校
北海道 江別市立対雁小学校

バングラデシュ人民共和国

在バングラデシュ日本国大使館付属ダッカ日本人学校

特別賞

低学年の部

木のマクラギ

東京都 鬼頭 伸弥 さん

わたしのだいすきなおもちや

大阪府 永田 桜子 さん

高学年の部

はっぱ

青森県 今井 悠人 さん

木に囲まれたペンション

愛知県 岡田 悠笑 さん

ひのきの香りが好き

高知県 岡村 笑子 さん

初めて知った自然の大切さ

東京都 片本 結菜 さん

木のコンポスト

長野県 小林 瑛樹 さん

一本の木

大分県 佐藤 有悟 さん

コテージ5

青森県 白取 璃碧 さん

家と共に生きてきた柿の木

静岡県 鈴木 健二郎 さん

木の命

静岡県 鈴木 星南 さん

初めて知った五十年

東京都 鈴木 萌愛 さん

木について

千葉県 中村 凜来 さん

大切にしたい命

鹿児島県 原田 鈴平 さん

わたしの家にある青森ひば

青森県 藤田 里央 さん

ばあちゃん

大分県 吉澤 朋佳 さん

佳作

高学年の部

木といっしょの生活

ニュージーランド 石川 璃乙 さん

屋久杉のコースター

鹿児島県 岩崎 琉士 さん

時をこえて

福島県 薄井 唯 さん

『人と共に成長する木』

鹿児島県 加治佐 滉 さん

お気に入りのつくえ

北海道 鎌上 果 さん

「びわの木」と「ぼく」

鹿児島県 上村 昇矢 さん

私の自まんの木造校舎

広島県 岸本 樹 さん

心の中の私の木

千葉県 黒木 菜央 さん

ぼくの大切な学習づくえ

宮城県 須藤 大翔 さん

心の木

熊本県 田上 環子 さん

「ぼくと盆栽」

兵庫県 林 京志郎 さん

うちのシマトネリコ

鹿児島県 比良 優月 さん

ヒーローの強さの秘密

茨城県 古井 珠野 さん

木の力

岡山県 山口 寧々 さん

木の香り、かいだしゅん間、リラックス

高知県 山田 恭平 さん

太郎杉を守っていく

栃木県 吉江 琴南 さん

低学年の部

クヌギから見たけしき

茨城県 五十嵐 亘 さん

木のくらし

ニュージーランド 石川 稜惺 さん

大すきスダジイさん

東京都 大橋 未来 さん

ふるいにつこうとうしょうぐう

茨城県 奥沢 照行 さん

わたしはけやきっ子

山形県 門脇 みのり さん

ゲースようち園の森さんへ

広島県 小嶋 里奈 さん

「でん車と東京の森林」

神奈川県 後藤 奏太 さん

ねがんのいす作り

鹿児島県 坂下 青渚 さん

みんなを守る 木や森のこと

埼玉県 富井 小晴 さん

大きくて太い木

ニュージーランド 西田 憲右 さん

じすぎはまわる

鹿児島県 日高 真琴 さん

がじゅまるの木

沖縄県 前花 滯音 さん

きられたいちょう

東京都 水野 千鶴 さん

だいすきなみかんのき

奈良県 南川 咲嬉 さん

パパのたいせつな木

和歌山県 宮本 夏帆 さん

わたしのつくえ

鹿児島県 山本 明香吏 さん

低学年の部

国土交通
大臣賞

石川県 五十嵐 柊奈さん

おじいちゃんのことだわり

おじいちゃんのことだわり

五十嵐 柊奈

「木は日本の文化じゃあ。」

おじいちゃん、おねえさんは、答えました。

おじいちゃんの家は木で、ばいなので、わたしは木のごがいのかたずねたのです。

おじいちゃんの家は、おじいちゃん自分がせ。計しました。木へのことだわりで、ばい。かべや家具は、もちろん木でできています。そして、うらと表から色

をかえてはられていて、木のもようになています。木の戸には、木をイメージしたガラスがはめられています。それに、外のかべは木がデザインされています。

に、あも木で、ばい。そこには、おじいちゃんとおねえさんのひみつきちがあります。

ひみつきちも木でできています。まどが広くて、北がわのまどの外には、桜や梅が、あつて春に見るときれい。南がわのまどからは、もみじが見えるので、秋は、こつ葉がきれいで

す。この前、ひみつきちではじめて、茶をちたててのびました。ここのんだま、茶は心がほんわかして、とてもおいしかった。おじいちゃん、おねえさんは、木は地きゅうにやさしい。木はさんそなうむし、人の心もなごませる。よく言、ています。わたしもたしかにそうだなあと思います。春には花がさいてきれいだし、夏は日なさき。てすすしいし、秋はこつ葉がきれい。わたしは、このにわで虫をと、たり花をつんだりして遊ぶのを楽しみにしています。

とこでわたしは三姉妹で、全員木の名前が入っています。長女のわたしは、「桜奈」で、おねえさんは、「桜乃」で、妹（おみじ）です。秋に生まれました。三女は「千桜」で、桜（ちくら）です。春生まれです。お父さんに聞いたら、木は花や葉にくらべて長生きするし、大きくそたつので木のように大地にしっかり根を生やして、けんこつで長生きして

ほしいと思、て木の名前をつけたそうです。おじいちゃんのおねえさんのまんなには、桜が大好き。おじいちゃん、おねえさんは、昔からおじいちゃんのおねえさんに、たそう。次女の桜も、わたしにたくさんうわ、ています。でも三女の千桜が生まれた時には、桜はにわにありませんでした。おじいちゃん、五月生まれの千桜に合う桜をさがしたそうです。北海道に五月の中ごろに、さんちシマザクラというのがある。たので、それとよく似た桜をうえてくれました。

た。今、おじいちゃんのおねえさんは、わたしたちの木が元気にそだ、ています。

おじいちゃんのおねえさんには、おじいちゃんのことだわりで、ばい。

高学年の部

国土交通
大臣賞

ニュージーランド
森田 祥奈さん

「木のあるくらし」

「木のあるくらし」

森田 祥奈

木は、昔から私たちの暮らしを支えてきました。いろいろな物に使えるということから木が身近な存在だということが分かります。家の外だけではなく、机やいす、楽器などにも木を見つけることができます。こういうふうに、私たちの生活に欠かせない木は、いつから人間に使われていたのでしょうか。

いろいろな遺跡が調べられた結果、日本では縄文時代から木が使われていることが分かりました。縄文時代の人々はすでに木の種類によって、使い方を考えることができていました。例えば狩り用の弓を作るにはカシ、住居を造るにはヒノキ、カシ、クリやシイを使うなどをしていました。飛鳥時代にヒノキで建てられた法隆寺がまだ残っているように、ヒノキは長持ちします。長く持ちそうなお鉢やコンクリートはせいぜい百年程度と言われて

いる中で、「ヒノキは千三百年経っても使うことができます。」

と日本各地の寺院を修理している人が言っていました。家造りにその長持ちするヒノキをすてに使用していた昔の人々は、すごいと思います。

飛鳥時代、つまり何百年も前に造られた世界最古の木造建築物である法隆寺は昔に建てられた物の中でとてもよく造られていると思います。

います。なぜなら、ネジがなかったのでも少しジグソーパズルのようにつくりにしたり、ほかにいろいろな考えられているからです。もしかしたら未来の人が直してくれれば信じて解体することをお勧めに造ったかもしれない。もある記事に書いてありました。未来の人たちが直してくれるか分からないのに、そういうふうにするのは相当勇気が必要なのではないでしょうか。

私のおじいさんがボラソテア活動に使

ている、モモの広場という木造の講堂があります。その講堂は一九五〇年代に建てられておじいさんが中学生のころは中学校の講堂として、お母さんが小さいころには保育所として使われていました。木の建物なのでコンクリートの建物に比べて音がキレイにひびくらしいです。温度もきよくたんすぎず、快適に過ごせるそうです。

このように、木は昔から身近にあつたことから長い間日本の文化であり、今でもよく使

われています。だからこそ、その受けついで文化を守っていくかなければならないと私は思っています。今ではいろいろな環境問題が出ていますが、私たちにいろいろな物を与えてくれている木や、木を使うことの文化を守りたい。た方がいいのではないのでしょうか。

低学年の部

文部科学
大臣賞

愛知県 奥村 あおいさん

わたしとおじいちゃんの木

わたしとおじいちゃんの木

おくむらあおい

わたしはふゆがすぎだ。おじいちゃんかまぎストーブをつけてくれるから。あさ早くからおきてへやをあたためてくれる。さむい日はともうれしい。ふんわりしたあたたかざやいつのまにかみんなあつまってにぎやかになる。まぎストーブは、ソラリもじようすだ。手づくしするウツギ、ピザ、やきいも、おせちなどはとてもおいしくてたべすぎた。もう、でも、まぎストーブもまぎをたくさんたべる。

まぎは、おじいちゃんがいっしょあつめてくれる。かまぼこのようなかたちになって、まぎだ。一年かけてかんそうさせるのがたくておもい木は、ながいじかんもえろがあれにくいのでまぎにするのがたいへんだ。チエーンソーやオノ、のこぎつをつかっているおじいちゃんをみるとけがをしなれんぱいになる。ぶじにかえってくるとうれしくなる。

あなただけの木をみつけた。おじいちゃんにはテッポウムツが木をたべてせいちようするの、木をかざしてしまふことをおしえてくれた。カミキリムツのセソチユウであたしの小学校のクロマツもかれてしまった。カミキリムツにぶるひかいには、たくさんあることを学んだ。

もうすぐふゆがくる。まぎストーブのあたたかさがたのしみだ。おもたいまぎをおじいちゃんと一緒にりん車ではこぶ。まぎに

は、ヤモリや虫がそうみんしてゐるので、はうっていかしてあひる。おじいちゃんがつくたまぎか、虫たちのおふとんになってゐる。まぎは、虫やあたしたちをふゆのさむさかりまもってくれる大せつなものだ。

おじいちゃんがかんばってあつめたたくさんまぎは、もやしたるがういはいになる。さみしいきもちになる。でも、そのはいはおばあちゃんかたけにまく。土がいんきになるので、やさいが、おいしくなる。あたしも

花さがじいさんのようにはたけや木に「いんきになれ」と、こえをけなからあまつだいをする。はるになつたらきれいな花やおいしいやさいがでるといいな。おじいちゃんまぎは、さむさをふせいで、はたけをいんきにすまはうの木だとおもふ。

わたしもまはうのお手つたいがでさうように、木のかかんをかつてもらった。たくさん木があつておもしろい。夕ラヨウのはにハお手がみがかけるかやってみたい。にあらる木ダイジュが、はにみをつけてクルクルおちるところをみてみたい。

木のすかんをみるとおもしろくする。あたしのすきなナシは、白い花がさく。赤やさいの花がさく木もあるが、どんなみかでさるのか、おじいちゃんのかな。テッポウムツが木をまもるには、どうしたらいいのだらう。もとたくさんの木となかよくなるために、ベンスキとしたい。

高学年の部

文部科学
大臣賞

埼玉県 田代 葵彩さん

家と未来と私

家と未来と私

田代 葵彩

「ただいま！」

玄関の鍵を開け、ランドセルを無造作に下ろすとリビングの床に大の字になって身体を伸ばす。少し汗ばんだ肌に無垢板の感触が心地よい。学校での一日を振り返りながら目を閉じる。鍵、子になって5年、いつの間にか日課となっていた私と家の対話だ。うれしい時も落ちこんでいる時もモヤモヤしている時

もソワソワしている時も、家に帰ると一瞬でホワとした空気に心が包みこまれるから不思議だ。

私の家は築6年を迎えた木造2階建て。冬の晴れた日には、2階の西向き窓から白く雪化粧した富士山を眺めることができる。夏は涼しく、冬は暖かく、私たち家族を守ってくれるこの家は、北海道の工務店さんが建ててくれた。住宅を建てることは大変経費がかかる。そのため、多くの住宅メーカーは少し

でも安く手に入る海外の木材を使う。そんな中、限りある資源を守りたいと北海道産の無垢材だけを使って家づくりをしている会社だ。「家づくりは一生に一度あるかないかの機会、とても大きな買い物だから環境のこともし、かり考えて、大切に住み続けられる家も建てたかったんだ。」と両親は家づくりを始める時の気持ちを教えてくれた。

この話を聞いた時、私は最近テレビのニ

ースで知った空き家問題のことが頭をよぎった。近年、少子高齢化や地方における人口減少などの理由により空き家数の増加が社会問題となっている。私の家の近所にも住む人がいなくなり、庭が雑草だらけのまま放置されている家がある。その家の前を通るたびに心がチクリと痛くなる。二年くらい前には高齢のご夫婦が暮らし、庭の家庭菜園で野菜を作っていたり、植木の手入れをしたりしていたことを知っているからだ。立派な家も

住む人がいなくなるとたちまち彩りを失い、そこだけ時間の止まった空間のようにボツカリ取り残されてしまう。

家は使い捨てであってはいけない。不要になっただけからといってごみ扱いしたり、じゃまな物として目を背けたりするのは違うと思う。学校の総合の授業でSDGについて学んだ。その中に「住み続ける街づくり」、「つくる責任、つかう責任」があったことを思い出した。50年後も100年後も次の世代が住み続けら

れるよう受け継いでいくことが地球存続のため、できる努力目標になるだろう。

先日、6年前引越してきたばかりの頃の家の写真を見た。白木のきれいな床はやけて落ち着いた色に変わっていたが木目がきれいに浮き出ている。私たち家族がたくさんハイハイしてきた床、背くらべで印をつけた柱、私はこの家が大好きだ。私たち家族の成長を一番近くで身守ってくれた家に感謝しながら、これから大切に住み続けていきたいと思う。

低学年の部

農林水産
大臣賞

千葉県 山口明莉さん

はじめてのなえ木うえ

はじめてのなえ木うえ

山口 明莉

「ゴールデンウィークの晴れた日のことでした。わたしはおじいちゃんの家でなえ木をうえました。メンパーは、おじいちゃん、おばあちゃん、わたし、お父さん、お母さん、弟です。おじいちゃんの家のは山です。おかしからある木が、木がすごく長い。そして、その中には虫くいてくさってしまっている木もあり、うら山がくらくらしてしまっている。たのび、年

は、山がくずれると家もくずれておじいちゃんおばあちゃんも危ないかもしれないから、一生けんめい木をうえようと思いました。

うえるなえ木はひのき、コナラあわせて百五十本です。うえるなえ木を見ても、ひのきのなえ木は、高さ40センチメートルくらいで、ほそくてやわらかい。ばてしたわ。これは、ほそくてやわらかい。ばてしたうてした。コナラのは、ばてした。た円形てぎざ

ぎざしてしまいました。あ、これはひのきのわ、こよりも。かりして、いってここにたか、ていしました。

そして、百五十本をみんなで手分けしてうえます。おじいちゃんとおばあちゃんの前もって、白いビニールテープでうえるばてに、しるしをつけてくれています。そこに、お父さん、おじいちゃん、お母さん、弟、おばあちゃん、わたし、お母さん、弟はなえ木をうえるの中に、すくおいて土をか

ぶせました。山が少しき、うなので、おちないうように足をし、かりぶんばりしました。そして、木がまがって、はえて、こかいようになえ木をま。すぐうえるのがおもしろかったです。

だけど、やっ、ていくうちに少すつうえ方が上手になり、楽しくな。ていきました。なえ木をうえたあしは、じょうろで水をあげました。水をあげたとき、あたしが大きくなった。木はどうなっているかと思いましたが、わたしは弟とおじいちゃん、うら山であそんだり

はしりまわったりするのが大好きです。今回うえた百五十本の木で、山と家をまもってほしいです。

高学年の部

農林水産
大臣賞

神奈川県 徳永 珠羽さん

思い出はエネルギーになる

思い出はエネルギーになる

徳永 珠羽

私は六年生だ。でも幼稚園に行く。「いつても遊びにおいで」と先生が優しく見送ってくれるから。

六月にはびわを食べに友達と一緒に幼稚園に行き、た。幼稚園には、実がなる木がたくさんある。梅・さくらんぼ・きんかん・かき・むかん。ざ。と思いつけるだけでもこれだけある。園庭でとれた梅で先生が梅ジュースや

ジャムを作ってくれていた。ただ、美味しかったという思い出だけではない。一日たつにつれだんだん色や大きさが変わっていき、こ

とそれがともわくわくして楽しかった。本園とは別に、分園があつて月に数回そこへ通じた。分園は本園より自然が多くて広かつた。園庭の一番奥に大きなツリーハウスがあり、太い枝にかけられたブランコは一番人気で楽しかった。ツリーハウスに上がると木の香りですこく落ち着いて、ぬくもりを感

じられた。涼しい風が吹くと、さめさめと葉と葉がすれあう音が何とも気持ちよく、木と一体化しているような気分だった。たからず、とそこにいたい気持ちになった。運動会も分園で行った。運動会の練習で記憶にあるのは大きないちごの木になるざんなん。ふまれてしまつたざんなんが放つ匂いに「くさいね」と笑いあつた思い出。

分園で強く印象に残っているものがある。それは土の黒さだ。分園よりも黒い土は見た

ことがない。最近知つたことだが黒い土は養分が土にたくさんある証で植物は土の中の養分を吸つて成長している。だから幼稚園の果実は美味しかったのだと納得した。

そんな分園が去年の春、取りこわされてしまつた。最後に見に行つた門に咲いている桜はきれいだった。だが悲しげにたたずんでいた。

分園が取りこわされて一年半がたつた。だが、まだ空き地のままで草が生い茂つていて、そんな姿を見て私は木をすべて切り倒して更

地にする必要はあつたのだろうか、と強く怒りがこみ上げる。

でも、私の思い出は消えない。私の思い出は常に自然と触れ合っている。自然の恵みを感じることによつて幼稚園の思い出が何度でもよみがえる。

木には第一の人生と第二の人生があると聞いた。第一の人生は木として自然に成長する人生。第二の人生は木材として家や家具になつて何十年も何百年も生き続ける人生。開い

た話はそこまでだが私は木には第三の人生があると思う。第三の人生は人の大切な思い出になることだ。

私は六年生だ。でも幼稚園に行く。いつもと変わらない木がむかえてくれるから。

低学年の部

環境大臣賞

東京都 上條 蒼馬さん

桜守活動くこれからも桜を守りたいく

桜守活動くこれから桜を守りたいく
上條蒼馬
僕の住んでいる東京都国立市には、大学通りに沿ってきれいな桜並木があります。僕は一歳の頃から国立に住んでいて、毎年春になると家族で満開の桜を見ることを楽しみにしています。薄いピンク色の桜が満開に咲いている姿はとてもきれいで、国立市だけでなく遠くに住んでいるたくさんの人も桜を見に来るのです。
桜はおよそ九十年前に上皇陛下の誕生を記念して植えられた歴史あるものだそうです。今年、僕は、長い間桜守の活動をしている人に話を聞く授業がありました。桜守の人は、
「大学通りの桜並木も市の様子が変わり大きな道路ができてたりしてだんだん傷んでいきます。枯れ枝や大きな空洞ができています。木が折れたり、根が踏まれる事で桜が傷んでしまうから、桜の根を踏まないように根元に花を植えたり柵をたてる活動をしています。」
と教えてくれました。
僕は、今と変わらないうきれいな桜がこれからもずっと見られると思っていました。でも実はそうではなくて桜は弱ってきている事を知りました。また、僕たちが毎年満開の桜を見ることができていたのは桜守の人たちの長年の活動や思いがあったからだと思いました。
それから、三年生みんなが桜の根元に肥料をまく活動をしました。この肥料は、化学肥料にたよらず米ぬかや黒みつを発酵させたもので、四年生が去年作ったものだそうです。肥料は臭くて手触りもベトベトしていたけれど、桜のためにとても良い栄養になるそうです。僕は僕達も今年、二年生が来年の活動でまく肥料を作ります。桜が元気になるような、栄養たっぷりの肥料を作りたいです。
春が来た事を知らせてくれる桜。満開の時期は短いけれど、思いっきり咲いて、見る人

みんなを楽しませてくれる桜。これから国立の桜が元気でいてくれるように、僕も桜にとって良いこと悪いことを知り、桜のための大事な活動が続けていきたいと思っています。

環境大臣賞

東京都
中島碧唯さん

「木」が「木々」になると生まれる魔法

がたまりにくくな たと感 ^い じてゐる それだ	け、水々には氣持 うをりラ、クス せる力が	あるのだらう。	「森林浴」とい う言葉がある。 森林に人々	てそれいな空氣を 呼吸する健康法だ。 しかし	なぜ「森林浴」か 出来るのは「森林」 だけなの	のだらうか。	たぶん一本の木 の周りにいるだけ でも木の影響は受 けられる。しかし、 一本ずつの「木」	が集まると「木々」 になり、それがさ げに集	り「森林」になる ことで、木の力が強 まり、て	「森林浴」として の力が生み出され るのだらう。	う。このことが、 僕には何かの力で あり、魔	法のように思へた。	木々の魔法は、そ れぞれの「木」が持 て	いる小さな魔法の 壺が、集まると「木 々」に	なることで形のあ る魔法になつたも のだと考	える。つまり、一 本の木ではできな いことを、小	木がまとまること で可能にしてゐる のだ。小	つなものも集ま る協力する力が、 大きな結果を
--	-----------------------------	---------	-----------------------------	------------------------------	-------------------------------	--------	--	------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	------------------------------	-----------	----------------------------	------------------------------	------------------------------	--------------------------------	------------------------------	-------------------------------

出せよ。これは、植物に罷らない。人間も一人では無理でも、団体で取り組むことで、大きな課題を解決することができる。だが、人は仲間と力を合して協力。ところが敵対すること多い。その一方、植物は生きていく上での天敵もいろいろ、天敵とてずう生態系を築く中で協力しあっている。植物の生き方を見習うことができれば、人が生きていくための大いなることが望めるのではないだろうか。

人間は同じ。また、かきこいという理由だけで、さまたげな生き物を絶滅させてきた。その結果、地域の生態系が壊れ、土砂崩れや川の干上がりなどが起き、人々が安心して生活できなくなり、環境が壊れてしまふ。人は真実、人々にならなうことで、自分にも他人にもその他の生き物にも悪影響を及ぼしてきた。そうではなく、たとえいふまでもなく、思う生き物でも、排除せずには存する方法を導いていくことが今の世の中には必要で、そのためのヒントをホウの「法」が学ぶことが求められているのだろう。

そんなことを考へなから、今日も僕は気持
ちのよい木々の下をひたすゝ走り結ける。

低学年の部

外務大臣賞

ニユージーランド 中尾 希さん

大切な木につたえたいこと

大切な木につたえたいこと

中尾のぞみ

あたしはニユージーランドのオークランドという町にすんでいます。あたしのまわりにある木のことを考えてみました。

まずはじめに思いついたのはニユージーランドの公園や学校のプレイグラウンドのことです。あたしの一番好きな休みじかんのあそびはうんていで、お友達と一緒に下に

おちないで、ただおくまで行けるかきうそうしたりしてあそびます。ときどき中でおちてしまいますが、プレイグラウンドのじめんはウッドチップというたくさんの小さな木のかけらでできているので、ひざや足があまりいたくなりません。あたしのおとうもプレイグラウンドで遊ぶのが好きで、あそんでいると中によくこけますが、ウッドチップのおかげでころんだときにけがをしにく

つぎにうちにある木のことを考えてみました。あたしが今すんでいるうちには、すこし大きなウッドデッキがあります。天気の良い日にはかぞくてバーベキューやたきやきをやっています。おそとでたべると気づかれないので、あたしはデッキでごはんをたべることが多いです。デッキではほかにチェアやベンチがあります。スクーターにのいてあそんだりします。

うちのうちはにはレモンの木やフィジ

ーにブッシュやオークへ行くとかあります。ブッシュやオークとは林や森の中を歩くとことです。森の中では木のぼり、色いろな木のえだをつかて、うちをつくたりしてあそぶのが好きです。

たまにフィッシャーというし、ほかせんすのような形をした鳥や、トワイというなきこえかとてもきれいな鳥に会えます。森の中はいつもすこしひんやりしていて、みどりのは、ばかり、ばいあ、て、木のいいにおい

す。森の入口には大きなブッシュと水で、ぼうのような形をした、うどくえきかおいてあります。そこから入ってきたばいきんで森の木がびやう気にならないうちに、くつをきれいにしてから入るのはとても大切なことだと

あたしは毎日たくさんの木にかこまれてくらしをしています。いろいろな形にな。てあたしたちのやくに立。てくれたり、いい気もちにしてくれる木にありかとう、と言たいです。

高学年の部

外務大臣賞

僕と将棋

ニユージールランド

柿沼 泰佑さん

僕と将棋

柿沼 泰佑

僕には古くて立派な将棋台がある。その将棋台は分厚い木で出来ている。この将棋台を支えているのが四本の足である。先っぽが丸っこく丈夫に出来ている。重くて厚い板を支え、僕がその台に乗る。かっ、でも、くずれずにいられる。強い将棋台だ。将棋盤の表面のマスは彫られている。ところどころマスが曲が

っているのは、手作り感がある。他には節やずいの模様がたくさんある。少し板が割れているところも、古きずがあるところが、この将棋台が長い間使われてきている証拠だ。

元々この将棋台は僕のお母さんの友達が持っていた。その人も友達からもらったそうだが、それをあげた人ももしかして誰かからもらったのかもしれない。想像を広げて考えると、これは世界最古の貴重な将棋台でも有り得る。僕はおじいちゃん、の趣味が将棋だ。だから

一緒に遊びたいと思って覚え始めた。しかし、おじいちゃん、と将棋をする前にコロナが流行り、日本には行けなくなった。そこで一つの提案がオンライン将棋だ。オンライン将棋とは、携帯で出来る将棋のアプリで、遠くに離れていても対局できる物だ。初めておじいちゃん、と対局するから緊張した。でも機械音痴で色々助けを求めたおじいちゃん、をビデオ電話で見て少し緊張が和らいだ。結果は予想通りに負けた。頑張ったのだが、おじ

いちゃん、は強い。僕は負けじと将棋の本で勉強し、戦いの型を覚え、試行錯誤をした。何度か負けて悔しがり、勉強し、の繰り返しだ。将棋を習い始めて二ヶ月、とうとう僕はおじいちゃん、に勝った。穴熊で玉を守り、最終的には頭金というシンブルかつ簡単な方法で王を詰ませた。嬉しくて記念撮影をした。最近では時々勝ち、時々負ける。おじいちゃん、と将棋を指すのはとても楽しい。おじいちゃん、とはオンラインで将棋をして

いるが、この間、コロナが明けて四年ぶりに日本へ行った。その時は将棋台が重すぎて持っていけなかったが、折り立たみ式で木製の将棋盤をバッグに入れて行った。僕の将棋台を使って将棋が出来ないのは残念だが、木の板と駒を使っておじいちゃん、と対局するからわくわくした。少し感動していて周りを覚えていなかったくさん、ミスをしたが、飛車と角行を上手く使い、我ながらに見事な逆転勝ちだった。木の板や駒で将棋をするのも、と楽しい。

一手を打つ時のパチンという音が部屋に響いてゆく様に感動した。自分が将棋の名人みたいな気持ちにもなっ、一段と楽しめた。

僕は将棋が好きだ。大人になってもまだやっているだろう。ただ、いつかは日本へ引越す時が来る。しかし将棋台は持っていけないのだ。その時はこの台を日本人の小さい子供に受け継いで行こうと思う。この台の初代持ち主もこうやって僕まで継いできた伝統的な台かもしれない。

福島県 鈴木 智香子さん

「わたしと木のピアノ」

鈴木 智香子

「わたしと木のピアノ」

鈴木 智香子

わたしのまわりには、木でつくられたものがたくさんあります。まず、わたしのいえは、木でできています。わたしのおじいちゃんとおばあちゃん、いえも木でできていて、木のいいにおいします。いえのわには、ゆずの木があり、ふゆになると、黄色のきれいな花が咲きます。おとうとはゆずのにおいが好きで、かぞくみんなをたのしませてくれる木です。ほかに、小さいころあそんでいたおままごとセットも木でつくられたもので、さわるとすべすべしていました。わたしのいえでは、ごはんをたぐるときにつかうおはしやスプーンも木でつくられたものです。小学校のじぎょうでつかうたがきにも木でできたものがたくさんあります。木でできたカステネットのタンタンタンとした音やウッドブロックのポコポコした音は、木のいい音だなと思います。

木でつくられたものの中であつたし、かへ
んすべきなのは、ピアノです。ピアノも木であつ
くられてゐるよ。ママとパパに教えてもら
いました。ピアノの先生からは、こんなお話
を聞きました。ピアノの音をひひかせるだ
いになっきうばん」というところは、ピアノ
のしんぞうで、木でできてゐるそうです。木
でできてゐるから、とてもやさしくて、れ
い音になるそうです。また、ピアノにつかわ
れてゐる木は、同じしるいでも一本一本ち
ががついて、同じものがないから、ぜんぶ同
じピアノはないんだよ、と教えてもらいまし
た。ピアノ教室のピアノといえにあるピアノ
も見た目は同じだけど、みんなちがう木であ
つてゐるから、一だいいだいい音もちがう
くるんだよ、という話も聞きました。

わたしはいつもピアノのれんしゅうをする
ときは、わたしのピアノについてあつてゐる木
はどこからきたのかなと考えると考えます。アメ
リカからきたのかな。とおくはなれたかいこくか

らきたのか。な。どんなところにするでいた木
 なのかな。わたしよりせの高い木だ。たのか
 な。き。と森の中でたくさんのお友だちの木
 にかこまれていたんだらうな。今は、はなれ
 てさみしくないかな。いうんことをわたし
 は考えます。いうんなところをたみしてきた
 木がわたしのいえにはたくさんあ。て、色や
 においや形がちが。てもみんな木のなかまた
 ちなんだと思うと、とてもうれしいきもちに
 なります。

高学年の部

住宅金融支援機構
理事長賞

福島県 石田 倭士さん

ただ今新築中

ただ今新築中

石田 倭士

「やっぱり木の家がいいなあ。」
家を新しくすると決めた時からこの「いいちゃん」の口ぐせです。なんで木の家が「いいちゃん」の口ぐせで、今のぼくは、その気持ち
が分かった気がします。

今年、築六十一年のぼくが住んでいた家をこ
わし、新しい家を建てることになりました。
ぼくは、古い家も部屋が「いい」あって、広く

て大好きだったけど、新しい家になることが
とても楽しみでうれしかったです。どんな家
にしたいかと業者の人との話し合いで、
「木の家がいいなあ。太い柱で、しっかりした
家にして下さい。それだけが希望です。」
と「いいちゃん」が強く言うてきました。

きそができて大工さんの仕事が始まると太
い柱を何本も使ったほね組みが完成しました。
ぼくとい「いいちゃん」は、毎日の進み具合を案
しんでいました。たくさん運ばれてくる木材

が、一本一本大工さんと重機で家の形に
なっていくのを見て感動しました。

先月、業者の人に、

「中見て下さい。」

と言われたので、家族でわくわくしながら入
った時、真先に感じた新しい木のおい
わすれられませんか。新しい木のほつとするよ
うなおいときれいにしいるある木がキラキ
ラと光っているように見えました。しいてあ
る木は、無く材だそう。無く材の木目は

いろいろなまようになつていて、さわつてみ
るとフローリングと比べて少しやわらかく感
じました。床やかべをさわつてみると、
「きずになつても大い」うぶたよ。そのきず
が「いい味になるから。」
と業者の人が教えてくれました。他にも季節
で木がちがんだりふくらんだりすることや深
いきずができた時の対処法も教えてもらいま
した。

八月になり、もう少しで完成するほどの家

太い柱も数えきれないほど使った木材をかく
れてしまつてもう見えないけど、二本一本の
木材が組み合わさり、支えあつて一軒の家が
できる様子を見るのができて勉強になりました。
そして、「いいちゃん」にどうして木の家
が「いい」のか聞いた時、

「子どもたちが作ったきずもよごれも思い出
になるから、大人になった時の昔話になる。
木材の自然なあたたかみもいいなあ。でも一
番は、新しい木のおいだな。新築じゃない

と味わえないからなあ。」
と力説してました。「いい」が「一番」なのか。
と思つたけど、ぼくも新しい木のおいかに感
動してしまつたので、「いいちゃん」と同じだ
と思います。こ
れから長いときあいになるほどの家
が大切になります。大工さん最高の家があり
がとう。

低学年の部

日本木造住宅産業協会
会長賞

千葉県 井口文乃さん

おじいちゃんの木まくら

おじいちゃんの木まくら

い 文の

わたしのおじいちゃんのおうちのリビングはひろくて、木でできたものがたくさんあります。わたしは、木のかぐのあたたかい色が好きです。

木のテーブルで、おじいちゃんとおばあちゃんとおたしが花ふだをしている絵をかいてプレゼントしました。その絵は今もリビング

にがざってあります。

木のソファにすわったおじいちゃんの手や足をもんであげました。おじいちゃんの手はとてもあたたかくて、よろこんでもらえてうれしかったです。

木のゆかの上では、おとひめのいしようにきて、ダンスをおどってあげました。おじいちゃんはおばあちゃんと、はく手してほめてくれました。

この木のゆかは、あかるい黄土色で、ふり

はゆかだんばうであたたかくなります。おじいちゃんはおぼんをたべたあと、いつも木のゆかで、かまぼこがたの木のまくらをしてねていました。わたしがおじいちゃんのとりにねると、おじいちゃんはおぼんにこして、今どはわたしの手をもんでくれました。

わたしも木の木まくらでねてみたら、ごつごつしていてあたまがいたくなかったので、おじいちゃん、この木の木まくらにいたいよ。と言ったら、おじいちゃんはおぼんにこにこわら

て、

「いたくないよ。」

と言いました。わたしはどうしていたくないのかなと思いました。それで、

「いたくないよ。」

「いたくないよ。」

とおじいちゃんと言いだいたをしたら、あたしのしたのしかなかったです。おじいちゃんはおぼんにこにこしていました。

今年の春がくる前、おじいちゃんはおぼん

さまになりました。さいごも木のかぐで、木のかぐをしておひるねしていたそうです。

おぼんにおじいちゃんのおうちに行きたき、わたしはおじいちゃんの木まくらを出してもらいました。よく見るとそのまくらはおちこちがさがついたりへこんだりしています。おとうさんが、

「おじいちゃん、おとうさんが子どものころからこのまくらをつかっていたよ。」と教えてくれました。

わたしは、おじいちゃんが木の木まくらのことだよになつてはおおづえをつき、

「ふみちゃん、つえをとって。」

と言っているすがたを思い出しました。木の木まくらはやっぱり今でもいたが、たけれど、おじいちゃんのおとなりでまたねてみたかったです。

わたしの思い出の中のおじいちゃん、木のかぐのあたたかい色にかまれて、いつもにこにこしています。

高学年の部

日本木造住宅産業協会
会長賞

広島県 切川 翔太さん

ひいじいちゃんからの贈り物

ひいじいちゃんからの贈り物

切川 翔太

「翔太、この木のはしをし。かり持って、動かないように押さえておいてくれ。」

そう言うと、祖父はえん筆で印を付けた線の上を、すん分のくるいもなくノコギリの刃を当てて前後に動かしていった。弟の本棚と一緒に作っているのだ。家具屋へ行けば、かん単に組み立てられるじょうたいで売られているか。自分で作られる物は作れはいい。

かそ父の口ぐせだ。

これまでも、くつ箱やぐくふち、はしこやテレビの台など、木材を器用に加工して作ってくれている。新しく作るだけでなく、折れたりけずれたりした部位をほ強したり、付け替えたりしてしう理するのも手ぎわよくやつてのける。

そ父は元々、大工とは全く関係のない公認買として長くつとめていたので、なぜこうも物作りが上手いのか疑問に思っていた。カン

ナという道具を使い、平らに、そしてなめらかに仕上げの作業へとうつっている合間にたずねてみた。

「翔太のひいじいちゃん、建具屋という大工さんの仕事をしていたんだよ。じいちゃん、時間が空いた時にはいつも手伝っていたから自然と身に付いたんだよ。」

ひいたいいう。すらと輝く汗を、クタクタになつたタオルでぬぐいながら教えてくれた。五人兄弟の四男であるそ父は、阿賀の町に

ただ一人残つた息子で、すでにあるてい度の高れいでも、た親の助けになりたい一心で、自然と手伝っていたとのことであつた。あが家に木材加工の大工道具が多く保管されている理由がようやく理かいてきた。

「教えてもらうのを待つていたのではなく、見て、ぎじつをぬすんで自ら学ぶことが大事で。これは様々な場面で言えることだ。けんない。」

と、説とくカのある言葉を発しながら、ぼく

の何倍もゴツイ手を広げて見せてくれた。

ぼくの住む家は、父が小学校に上がる頃にかん成した、ちく三十五年の一けん家である。

当時、七十歳を越えていたひいじいちゃんも大工さんにまじり、大きな家をささえる柱やはり、床板等の加工を手伝っていたと聞いた。そ父たくのぶつだん横にある写真でしか見たことがなく、もちろん話したこともないけれど、たしかな温かみにぼくは包まれている。

これまでいく度となくふりかかつてきたであらう自然さい害からも、頑丈な柱が組み合あさつてできていく家は、家族をすり、これから安心と安らぎを与えてくれる。ひいじいちゃん、温かい想いのつまつたこの家を、ぼくたちはずっといきたい。

けずりたての木くずの香りに、昔をなつかしんでいるそ父の表じようを目に、ぼくもこのひと時を未来につなげていきたいと思つた。

朝日小学生
新聞賞

熊本県 酒井宗佑さん

ウッドブロックのえんそうかい

[illegible]

だ	ぼ	い	か	ひ	く	つ	た	た	た	る	け	た	ざ	る	ざ
た	く	者	い	く	で	た	た	た	た	気	ど	た	ら	る	ら
は	は	は	者	い	た	た	た	た	た	も	う	こ	ら	る	ら
目	た	ち	は	者	い	た	た	た	た	ち	う	う	木	ま	ま
が	か	よ	た	あ	い	た	た	た	た	か	ど	え	か	わ	わ
見	い	と	い	た	音	は	た	た	た	た	ア	の	の	り	た
え	音	小	音	た	は	か	た	た	た	は	ロ	木	は	は	と
な	の	さ	の	は	た	い	た	た	た	は	ッ	は	ざ	ち	こ
い	う	く	ほ	こ	か	も	た	た	た	は	は	ざ	ら	と	ろ
だ	が	こ	う	え	は	れ	た	た	た	め	る	だ	も	ざ	は
か	す	え	え	ひ	音	ん	た	た	た	て	フ	だ	ッ	ら	ッ
ら	き	る	た	く	と	ぞ	が	た	た						

[illegible][illegible][illegible]

の	木	で	や	さ	た	も	の	も	た	い	せ	え	に
し	た	い	と	い	う	き	も	ち	に	な	ッ	た	。
こ	れ	か	う	、	ば	く	は	こ	ぼ	こ	の	木	
を	つ	く	ッ	て	め	た	い	。					

高学年の部

朝日小学生
新聞賞

佐賀県 馬場崎 心さん

木がつなぐ素敵なプロジェクト

木がつなぐ素敵なプロジェクト 馬場崎 心
「この家を建てる時、山の木を伐り出しに何度も何度も、じいさんに呼ばれたばい」
年末、祖母が亡くなった。葬式のおこきの時、親せきのおじいさんは大きな柱をなで、仏壇の写真を見ながら「うう言、た。昨年の作文に書いたが、入院中の祖母の回復を願い、三千年の楠に祈り続けた。私は思いが届かず、下を向き、ごろ走を食べる事が出来ずにいた。」
「俺も！沢山手伝ったばい。上棟式で足がぶるぶるふるえながらも屋根の上に登り、餅もなげて気持ち良かった。」
そう話したおじい。に。こり笑う。親族の顔がくもりから、春の空の様にほかばかした優しい表情に変わり、私も笑顔になった。
「仏壇の横の壁は、私が竹小舞を組んで、左官さんに教わりながら土を塗り、し、くいでしあげてもらったよ」と母が自慢気に話す。そして、和尚さんがこう話してくれた。

「お供さんをあげに来ると、いつ来てもおばあちゃんの家を大切にされてましたよ。時には、高い所にはしごで登って、草取りされてとヒヤセヤしました」と笑った。
ふと見ると、祖父母の写真も、誇らし気に微笑んでいる様に見えた。年を重ね病気をした祖母は、縁側にぼう、と座る日が増え、山を眺めていた。何を見ているのか不思議だ。たけご家を建てた楽しかった日を思い出していたんだ！と思った。
それから私は、「木を育て家を建てる、て、どの位かかる？」と気になり図書館で調べた。苗木を山肌に植え、枝打ちのタイミンクまで13年、下草を刈ったり成長を見守り、25年程で間伐という間引きをする。50年で、やっと伐採し、乾燥する事が出来る。気の遠くなる地産地消の家づくりでエコなのだ。
本には、ウッドショックの点で考えても、木材はCO2を吸収し、炭素を固定する機能を持つ資源で、循環させる事がカーボンニュート

ラルの実現に大切と書かれていた。祖父母の家は、曾祖父から山を受け継ぎ木を育て、皆の力の詰まった素敵なプロジェクトにより出来たものだ。
私は、想像から絵を描く事が好きだ。目をとじて、当時の景色を眺めてみた。近所のお寺の裏の道を登ると、水源の堤が広がり、鳥や魚が生息している。更に登ると、棚田が広がっている。春には、れんげ草のきれいな景色が広がり、草花は優しい香りや、春風、子鳥のBGMが流れている。夏は、セミやカエルが大合唱し、潤す水が流れ、小川に流れる涼しい音が聞こえる。木もれ陽を浴び、秋冬には、下草刈りや枝打ち間伐する。「アルプス」と機械音が響く山で、皆が楽しく作業をし、おにぎりを食べて笑い合う姿が浮かんだ。
今、祖母のお気に入りの縁側には、おじいさんの愛猫が日なたぼっこしている。また、祖父が山に植えた苗木が活やくする日が来るという気がする。

低学年の部

審査員
特別賞

鹿児島県 野崎 一呂さん

ゆめのツリーハウス

ゆめのツリーハウス
のぞき みる
ぼくは、六さいのころから、ひ
いおはあちゃん、はたけのく
の木に、ツリーハウスをつくりた
くて、す。とゆめ見えています。
くりの木のあるこのはたけは、
ひいおはあちゃん、すまふく
てから、木と草だらけになりま
した。だけど、いろんな生きもの
がいて、木のみもとくさんなりま
す。じぶんでもおとしをして、た
ぎんもできる、サバイバルがすき

おぼくにとって、さいこうのぼし
木です。この木は二十年前くらい
におはあちゃん、うえた木で、
「こんなんに大きくなるはおそ
んやっただろ」と、おとうさん
と、おとうさんとおとうさん
と、いきました。高いところまで木
のぼりができて、ロープブランコ
もたのしめるこの木は、くりの木
が、ぼくの一ばんのお気に入りだ
す。だれもこなくったはたけだ
ったけれど、ぼくのことを聞いて
しんせきのみんなも、かえってき
たら、くりの木のうしろに、あつまるよ

うになりました。なつは、木かげ
ができてすすしいので、おべんと
うもたべておかしの話もします。
「ここは、よかね。」
と、みんな、たのしそうです。
おはあちゃんも
「わたしのうえたくりの木が、み
んなのやくにたつてよかった。」
と、よろこんでいました。
ぼくが、ここにツリーハウスを
つくりたくなったりゆうは、じ分
の思い通りのかたちにつくって、
一人だけでここに、とま、てみた
いと思っただけです。おたんじよ

う日にもらった、「ツリーハウス
でゆめをみる」という本で、たく
さんせかいのツリーハウスを見て
も、とつくりたくありません。大
きさは、コンテナくらい、いろは
ちや色。やねうらややと、テラス
もあります。木のエレベーターで
上へ上がることもできます。もう
かんまいも、せつけいもかいて
いて、おがあさんに、
「どうやったらできるかな。」
と、百回ぐらいいろ話をしています。
「したいようにしたらいいよ。」
とおがあさんは言います。つかえ

そう、木を見つけたときは、いえ
に、といておいてもらっています。
ツリーハウスが、かんせいした
ら、上に、とま。てくる虫や、鳥を
そう、かんせい、とつかわなくても
近くで、かんさつできると、思うと
ワクワクします。犬のオーヤと
マルも、いっしょにねてみたいです。
この木のたのしいきまりをつく
て、よろおそくまで、本をよんで
もいいことだと思います。友だちをし
よう、たいして、カレシをたべたり
ぼうけんしたりしたいです。この
くりの木に、ツリーハウスができて

ていたら、みんなびっくりする
と思います。おがあさんは、
「ひいおはあちゃんもよろこぶよ
と、言います。そう、ぞうではもう出
き上がっているの、早くゆめの
ツリーハウスで、すべしたいです。

高学年の部

審査員
特別賞

帰り道

静岡県 松井 未緒さん

帰り道

小学部六年 松井 未緒

私の帰り道はいつも一人だ。友達とは反対方向へ向かって帰ったり、お母さんたちに車で迎えに来てもらったりと、いろいろある。周りを友達と見比べても、だれもいない。自転車で、高校生の横を通り過ぎていくだけで、歩いていっている人は、たにいない。お母さんの会社まで歩き始めたのは、四年生の時。その時、私は、六年生のお姉さんやお兄さんと途中まで一緒に帰っていた。お姉さんたちが中学生になった。一緒に帰れなくなった。それから私は、一人で今までの道歩き。さみしくて、胸が押しつぶされそうだった。冬は寒くて、風が強くて、そのうえだれもいないから、今までの以上にさびしかった。

その日も風が強くて、寒い。寒かった。するとその時、

と、音が聞こえた。風で木が揺れて、その時に鳴った音だ。た。でも私には、
「おつかれ様。大丈夫？ 寒いね。」
と、私を助けまわってくれているように聞こえた。木が私を応援してくれている。木も葉が落ちて、寒いかもしれないが、がんばっている。その日から私は、木と会話をしながら帰っている。私が
「今日は、いつもより寒くて、昼間は少し雪が降ったね。大丈夫？」
と聞いてみると、
「ぼくたちは大丈夫。みんなで、ついていけるからね。」
と返事をしてくれる。

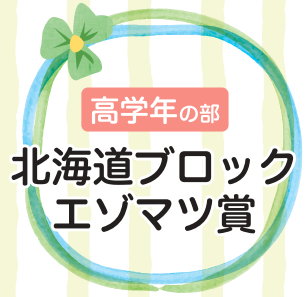
木は、夏になると強い日差しから私を守ってくれて、涼しい風を私に送ってくれて。秋になると、枯れ葉が散って、カーペットのようになる。冬になると、木々は寒そうにして立っている。や、と春になると、木々の大合唱を聞かせてくれる。春のおとずれを表すような、とても明るい歌だ。そんな木とは、晴れの日も雨の日も春も夏も秋も冬もうれしい日を過ごし、木は色々な姿を見せてくれる。木々は急な斜面でも、根をばたき、ええ合っている。私は一年間、木と一緒にいた。その間、木たちは一緒に話してくれて、いつもそばにいてくれた。木は、とても大きく、周りから

つつみこんでくれた。
木には、色々な木があるが、その中でも私は松の木が好きだ。とても大きくて、強く、好きた。東日本大震災の時も、海岸に一本松が残った。たとえ有名だ。私の帰り道にも松がある。大きくて、優しく、温かい。松が私を大好きだ。松のおかげで私は強くなることを知った。私も松の木のように、大きくて強い人になりたい。今年は大年生。今の帰り道を歩くのは、今年で最後だ。木と共に今日も私は一人で歩く。



本審査の
様子





北海道 武田 ありすさん

私と家とジューンベリー

私と家とジューンベリー

武田 ありす

私の家にはジューンベリーの木が植えてあります。2歳のときに植えて、10年たつた今は、とても大きくなっています。最初は約一メートルほどだったのですが、今では約四メートルもあります。原産は北アメリカで、バラ科ザイフリボク属の木です。普通だと、6月に実をつけることからジューンベリーという名前が付けられたそうです。

ジューンベリーは6月になると白くて可愛い花を咲かせます。この花が木い、ぱいに咲くこともきれいです。実だけではなく、花もジューンベリーの魅力の一つだと私は思います。お母さんは、「仕事柄忙しいからつばみとかも気づかなくて花が咲いているのを見ると、もうこんな季節かと思うよ。」

家では毎年7月にジューンベリーの実を収

穫しジャムを作ります。私は北海道に住んでいるので実がなるのが遅いのですが、暑いときに食べる実はとてもおいしいので、北海道に住んでいてよかったです。最初は実も少なかつたのですが、今はすべて取り切れないほどたくさん実がなっています。ジューンベリーの実で作るジャムは普通のジャムと比べてあまり甘くなく、とても美味しいです。トーストしたパンにぬると一番美味しいです。お母さんは毎年、みんな美味しく食べてくれたらいいなという思いで作っているそうです。

そして7月にはもう一つ嬉しいことがあります。それは近くの保育園の子どもたちが、実を収穫しにきてくれることです。私の家の前の通りは、保育園の子どもたちの散歩コースになっていて、7月になると保育園の方たちに向けて、食べていってくださいという、はり紙を出します。食べている子どもたちが笑顔になっていくのを見ると、こ、うまで笑

顔になってしまいます。ジューンベリーの木が保育園の子どもたちの笑顔をつくるのです。私はなぜ植えたのかが気になりお母さんに聞いてみました。すると、

「実を建てた記念に小さい木をうえ、家とともに成長してほしいという思いを込めて植えたんだよ。」

と教えてくれました。そしてどうしてジューンベリーを植えたのかも教えてくれました。その理由は家を建てる時に洋書を見ていて、

海外の家には食べられる実の木が植えていて、そこが良かったのだと見たのでではなく他にも楽しみ方があつたから、思い出になるかなという思いからでした。この話を聞いて私は、この木には、お母さんの思いがたくさんつまっているんだなと思いました。

私が小さい頃からあつたジューンベリーが私と一緒に、家と一緒に成長していると思うと、とても嬉しくなります。これから、一緒に成長していってほしいです。

低学年の部

東北ブロック ケヤキ賞

宮城県 小野寺 大和さん

まぎボイラーってなに

まぎボイラーってなに

小野寺 大和

ぼくの家は四十年前から木をまきで湯をわがす。まぎボイラーを使っています。かいおばあちゃんの時分から大切にしています。毎日の生活にひつようなお湯をおかすために、おばあちゃんや夕方にまきをたいています。たぶんぼくの家だけボイラーを使っていると思います。

まきは昔、田んぼや畑で使ったくいや小屋

の古い木材を切ってさりようします。たまに知り合いの人が、たて物です。たて材木をもらってまきにします。

ただ、古い材木なのでまきよりおのゝあるのが大変です。スギ、ナラ、竹、クヌギなどをかき、まきにします。

ボイラータンクの中には水が入っていてお湯になるまで七度くらいに上がるまで木をまきします。まきはいれにはスギの葉をまきし木材もまきやうになります。

おいたお湯でお風呂やごはんをたき、洗たくに使います。昼間、お湯を使いすぎると夕方には二十度くらいでぬるくなってしまいます。毎日ボイラーにまきを使うので木材がたりなく、たり、えんとつに黒いすすがたまります。けありが家中に入ってきて大変です。えんとつえいもひつようになります。また、木材もえた後はいがたまります。そのはいをかたづけたり、畑のうやうやして使います。

ぼくの家ではまぎボイラーがないと生活できません。木の枝、かき葉もやす材りようとなります。木がなければボイラーも動きません。

家もたてたりリフォームしたりすることも少なくなりました。木材のほへんもえなくなりました。よくかいた木いかないともえません。木をかんそうさせるにも時間がかります。

(なせばくの家ではまぎボイラーなし)

とび開に思いましたが、昔から使っている地球かんきょうにやさしいからです。もちろん木をば、せりするだけでなく育てることも大切で、すていくこともひつようだと思っています。

去年の七月の大雨で庭の木がボロボロと倒れ、すかし実がなる古い木が、ねもとがたおれてしまいました。ひいおじいちゃんが大切にしていた木でした。とてもかなしくさいしくなりました。

昔から使ってきたことをよく大切にしたいし、これからまきボイラーがこれないがぎりおばあちゃんをういて大切に使うていきたいと思っています。



福島県 鈴木 初香さん

私の大好きな森

私の大好きな森

鈴木 初香

私は数年前に田舎に引っ越してきた。田舎と言ったが本物の田舎だ。家の前は田んぼだらけだし、家の後ろは森。おじいちゃんの家を引っ越してきて私は不満でいっぱいだった。学校まで歩いて行けないし、何より友達と遊べない。みんな放課後に公園で遊ぶのに私の家の周りは公園すらない。あるのは森と田んぼ。そして、夜は眠れない。森の虫達が大会唱を始めてぜんぜん眠れない。そこに風のあふ日は木のザワザワとゆれる音が加

わって歌が立体的になっちゃう。

だけど、こう思っていたのは始めのころだけだ。今は木々に囲まれたこの生活がとても気に入っている。木は私をいやし、たくさん

の学びをくれ、心豊かにしてくれた。まず始めに私は森を散歩する楽しさを知った。草木をかき分けて歩いていると、未知の世界が目に見えこんでくる。初めて目にするきのこや色あざやかな虫。空から降り注ぐ木もれ日に神秘的に写る竹やぶと木々。気分が

はずみ、トトロを探したくなる。

他にも、物づくりの楽しさを教えてくれた。三年生の時には、森のものだけで作ったかき棚を木工コンクールに出品し賞をいただいた。丸太や小枝、松ぼっくりなど森の仲間が私の部屋にやって来てぬくもりのあるあたたかな部屋になった。おじいちゃんと一緒に森の高台に木のブランコを作ったり、木と木の間にハンモックをつるしたりして、心休まる場所もできた。竹を切って流しそめんを

したり、落ち葉を集めて焼きいもを食べた。

そして、物づくりの楽しさや道具の使い方も学んだ。

それから、私は吹奏楽部でホルンを吹いているのだが、自宅前でないので、音量を気にせず思いきり練習できる。しかも、音がひびいて気持ちがいいし、空気もおいしい。森の虫や鳥、木々達とまるでセッションしているみたでいられる。

こうした経験から、私は木々と共に生きて

いると実感するのだ。

そして、私は考える。この木々たちがなくなってしまうたらー。

世界では、森林伐採が問題だという。このまま森林伐採が進むと私のお気に入りになるだけではすまされない。地球温暖化が加速して気候が変動するし、虫や動物などの生態系にもえいさようしてえき病がまん延する。いわば、今の私達の生活は木のおかげで成り立っているわけだ。

ただ、じゃあ長い長い木は若い木より二酸化炭素のさやうしやう量が少ないので、残し続けるより伐採をして資源として利用する、そして若い木を植じする事が大切だという。

私は、この森を守りたい。だから、じゃあ長い長い木々を物づくりに利用し、形を変えていっしょにいられるようにしたいし、必要な場所には植じやをしてみたい。

よし、宿題も終わ。たしハンモックにゆられに行こう。



神奈川県 宇野 美咲さん

「大磯小学校と共に生きてきた木」

「大磯小学校と共に生きてきた木」

宇野 美咲

校庭に「大きな木」があります。私たちが
かくれんぼをする時には、鬼が来ると、その
木の後ろを移動してにげます。男の子が校庭
でカブトムシとクワガタムシをたたかあせて
いたら、カブトムシがその木に向かって「こバツ
といとんで行きました。」

子どもにと、こも、虫にと、こも、「大き
な木」は安全な場所です。そして、その木の

下には大きな日かげができるので、人は休け
いすることが出来ます。虫は葉っぱにかくれ
て、身を守ることが出来ます。

大いそ小学校は今年、創立一五〇年をむか
える歴史のある学校です。六月には町内にあ
る郷土資料館で、「小学校開校一五〇年記念
学習舎の歴史」という企画展がありました。
こゝに示された写真の中に、昭和時代の人文字
の写真がありました。私たちも一五〇周年の
記念に人文字を全校生徒で作りました。私も

室に向か。て、水色の画用紙をあげました。
手がかれたけど楽しかった。

今年、記念にと、航空写真に学校で一番
「大きな木」がうつ、ていしました。校長先生
の部屋の前にもたくさん記念写真ががざ。
てあります。どの写真にもその「大きな木」
がうつっていました。

「大きな木」は何の木なのか知れたか、た
のび、郷土資料館の学習員さんに質問してみ
ました。何日か後に、その質問の答えがメー

ルで届きました。そのメールには、「大磯小
学校には、かつて日清戦争に勝ったことを記
念して植えられたクスノキがありました。」と
書かれていました。「当時の県知事が県内の

小学校にクスノキの種を配り、県内の小学校
では、この種を植えて、クスノキを育てた
そうです。日清戦争は明治時代に起こった戦
争で、今から一二八年前の戦争だそうです。
学習員さんからの話から、「大きな木」
は大いそ小学校と同じくらい古い、クスノキ

だということがわかりました。

私は、日ふしやいは、学校の木とハ
ッ本を大いそ図書館で見つけました。その本
には、「クスノキは、防虫に使われるのに、
その葉を食べて育つアオスジアゲハというチ
ョウの幼虫がいる。」と書いてあり、「産卵し
てすぐのたまごは、真じゅのようにキラリ
と書いてありました。クスノキはどこでも背が
高い木です。高い場所に葉があるけれど、ア
オスジアゲハのたまごや幼虫、セナギをいつ
か見つけてみたいと思います。

大いそを歩いてみると、アオスジアゲハを
よく見かけます。私の家のお庭にもアオスジ
アゲハがとんでいるのを何度も見ました。ク
スノキの葉を食べて育つアオスジアゲハとい
うことは、アオスジアゲハにと、クス
ノキは食べ場、翼にもなります。私たち、
子どもにと、て、お家のような場所です。

大いそ小学校と一緒に、校庭にある「大き
な木」もずっと残っていてほしいと思います。

千葉県
牟田明哩さん

音楽は木からの贈り物

音楽は木からの贈り物

私は最近好きになつた楽器があります。それはバイオリンです。その音色はだれが聞いても感動すると思ひます。私の場合はバレエを習つてゐるので、レッスン中はいつもオーケストラのクラシック音楽を耳にしてゐます。私は曲が流れたすゝ気持ちが穏やかになつて自然とおどろいたすゝになります。

一方で最近流行りのトッポのような電子音のダンスミュージックは元気が出る音楽ですが、バにやすら^さも感じると思えます。クラシックとヒップホップは、全く別の音楽でそれは材質による理由があるのではな^いかと思^います。木で作られた楽器は音にあたたかみがあるように思^います。クラシックは曲に表現が感じられるのに対し、ヒップホップは一定のテンポで進みリズムが多^く曲に場面の表現を感じにく^いと思^います。

私は二つの音楽の違いについて材質が聞か
れてゐると思ひます。それは、クラッシック
は、沢山の木を使つて樂器を作り、その音色
で曲を作つてゐるので木のぬくもりを感じな
んとなく心があたたかくなるような音楽です。
反面ダンスミュージックは電子音のためあた
たかみか感じられず心のこもつていないよう
な、心にひびきにくく自然を感じにくい音で
す。私ははげしい電子音の曲よりも、音にお
くゆきが感じられる、木の樂器を使つたゆ
たりした曲が大好きです。

このように、楽器は木のぬくもりがなほ心に沁みきにくいと思ひました。木にはぬくもりさとあたたがさの両方がつまつてゐる木には人と通じ合えることができると思ひます。

私の好きな楽器のバイオリンには、沢山種類があります。その中でも代表的なのが立奏する物でコントラバス、次に座て演奏する物がチェロ、バイオリンより少し大きなのがヴィオラで一番小さなのがバイオリン

です。ハイオリンの仲間ほとんど人が表板は
トウロの木をうら板はカエデの木を使、てい
ます。だんだん楽器を作るのに使われていま
す。だんだん楽器を使へ曲を作る人は少なく
ＤＴなどで作ったりする人が多くなつてきて
います。私は伝統のある楽器を終わらせたく
ありません。そのために、木を沢山植えての
先ずと楽器を作り続けるために、木を作
ても人々の生活に影響しない地球になつてほ
しと思ひます。

このように木は人々の生活に欠かすべし木は人の心を穏やかにしやすからをくれまゝ私なそんな木が大好きです。木でできている楽器は、バイオリンの他にも、ピアノや木琴三味線や琴など日本文化の楽器も木でできています。私は、ヒツポホツポも良いけれど、電子音のない木の楽器の心にひびいたりおどろいたくなるようなメロディ―を好きでいたいと思います。これから木のぬくもりを感じられる楽器を大切にしていきたいと思ひます。

低学年の部

北信越ブロック マツ賞

福井県 平井 涼葉さん

まきストーブ!!

まきストーブ!!

平井 すずは

わたしの家には、まきストーブがあります。まきストーブはあったかくて、カッコよくてわたしは大好きです。まきストーブの前においたソファにすわって、しずかにしているとき火がユラユラゆれて、パタパタというまきのもえる音が聞こえてきます。わたしは、その音も大好きです。

まきストーブをおくことは、おじいちゃん

がむかしからゆめだったそうです。わたしのおかあさんが小学生だったくらいから、どこにどういふふうにおくか、ずっと考えていたそうです。そんなにむかしから考えていたのに、なんでもと早くにおかあさんがたのかふしぎに思っただの、おじいちゃんに理ゆうを聞いてみました。おじいちゃんは、「おせわが大へんだから、おしごとがおわってからにしようと思っただの」と教えてくれました。

まきストーブは生き物じゃないのに、おせ

わが大へんっていうのはどういうことだろうと、まだふしぎに思いました。そこで、まきストーブのおせわについて考えてみました。まず、まきをたくさんよくいしなくちゃいけません。おじいちゃんとおはあちゃんはお休みの日に大きな木を切ります。大雪や台風でおれちゃった木をもうつくるそうです。そういう木を山においたまきにする時、山がびよう気になっちゃうので、木をとってきても山をまもっているとおせわもい

ました。山のおいしさんみだいなと思いました。と、てきた木は、おじいちゃんがおてわってまきにします。家のまわりにはたくさんまきがついてあって、おじいちゃんに聞いてみると、一万本くらいあると言っていてびっくりしました。そんなにたくさんいしびするの、本当に大へんだと思います。

そして、まきストーブはおそうじも大へんそうです。火事にならないようにえんとつの

おそうじをしたり、まきをもやしたら出るハイをはたけにすてに行ったりします。ハイははたけの土をゆたかにするので、やさしいが元気になるそうです。はたけにと、とてもおいしやさんみだいなと思いました。

まきストーブは、あったかくて、よくて、おせわがとっても大へんで、だけど山とはたけのためになることがわかりました。まきストーブをつかうのはさむい冬だけだけれど、つかうためには、春も夏も秋もまきのじ

んがやあそうじをしなくちゃいけません。でも、おじいちゃん、むかしからのゆめがかなって、もううれしそうだし、山とはたけのおいしやさんにもなれるので、ずいぶん元気にまきストーブのおせわをしてほしいなと思いました。そして、わたしはおじいちゃんに元気でいられるように、お手つだいをしたりけがをした時に手当をしてほしいなと思います。



新潟県 田辺康士郎さん

木の大切さ

木の大切さ

田辺 康士郎

ぼくの家の庭には、木がたくさんあります。大きい木、小さい木、れい木、実かなる木、花がさく木などがあります。木がらぐ、えきが出るので、虫が多くなります。だから、虫とりができて遊べます。こいの実もよくあるのて、と、遊べます。ぼくはこの庭が好きです。

ぼくはおいちゃんに、庭の木のひみつを聞きました。おいちゃんに聞かないと、木について知らないことばかりだ。たがりで、おいちゃんから話を聞いて、一番びっくりしたのは、こいの木のことです。二百年くらい生きています。枇杷島小学校の百五十才より長生きで、びっくりしました。おいちゃんが生まれる前から、こいの木はありました。ひいおいちゃんよりずっと、前のおいちゃんが育てていたと分かって、二百年くらい、たおねたり折れたりしないで

生きています。すごいと思いました。

二番目にびっくりしたことは、松の木です。なぜかというと、おいちゃんが二十才くらいの時、一メートルくらいの高さの木を植えて今はハメートルくらいになったということ。す。せいしょうして高くなつて、すごいと思いました。その高くなつた松の木をおいちゃんか、毎日せんていをしていきます。高い木の上に乗って、仕事をしています。かんば。ているなと思っています。

どうして、こんなに木を育てているのか聞いてみると、木はさんそをはいてくれるから、木を切ってしまつたらさんそが多くなつて、かんきょうが悪くなる。だから、木は切らない方がいいと言っていました。また、夏は木のかげになって、日が当たりにくく、木があると夏はすずしいのだそうです。木があるといいことがいっぱいあると分かりました。

昔、となりの家が火事になった時に、家の

周りにあるかしの木が、火から家を守ってくれたことがあったそうです。その時、火事の家がもえていたり、ぼくは、今ここに住んでいないかもしれませんが、かしの木が火よけになると分かって、すごいと思いました。

今の家には、昔使っていた家の木をさいり用しているものがあります。げんかんにあるいす、かべにはめこんであるくりの戸は、昔の家からとれたものだそうです。初めて、昔の家の木だったと分かりました。昔の家が木を抜いてきてすごいと思った、今でもとわれないので、うぶな木だと分かりました。

木はいろいろなかつやくをしていると分かりました。生きていくかんきょうを作ってくれるので、木がないと人は生きていけないと分かりました。だから、これからは、木を大切にしていこうと思いました。

低学年の部

甲・静岡ブロック
モクセイ賞

静岡県 川瀬 浩太郎さん

「すごく長生きしている梁」

「すごく長生きしている梁」

川瀬 浩太郎

ぼくのおはあちやんの家は島田市という所
にあります。年に2回あそびに行きます
ひいおばあちやんの畑でおづづかいをしたり
田んぼの周りを自転車で走り回ります。

おはあちやんの家はぼくの家とちがって、てか
べんがかりません。そして木でできた物がた
くさん見えます。ぼくの家も木でできてるこ
ろいたけどあより見えません。木でできてる

のは同じけど、ぼくの家は木が見えないか
らずにふしぎだなと思いました。

島田の家にいる木で一番すごいのは「梁」
です。お父さんに漢字を聞いたら、「梁」
と書くんだよとおしえてくれました。お母さん
といっしょに島田の家をしらべたら、梁が

全部で19本ありました。一番長い梁は、木こ
が直ぐに30センチメートル、長さば、9メー
トルです。かんやつしてみると色はこい茶色
白いよ、これがついでで木目がよく見えるも

じいややあそびたくさんみました。

「この梁はいつできたの？」

と聞いたら、「この家ができたのは明治28年だよ、
と教えてくれました。しらべたら明治28年は
1895年で138年前とお父さんが言ったのでぼくは
すごくびっくりしました。世界で一番年を
とってる人は115才です。その人よりも前に梁
がかぎたんだと目が丸くなりました。

島田の家の梁は年末に大掃除をするそう
です。橋のようなさき、たつを用意して、そう
さんで一本一本ふいていくそうです。二人で
3時間30分ぐらいかかるとおばあちゃんかう
聞きました。ぼくはや、たことがないけれど、
今年もぼくもやりたいです。

この家は、昭和59年と平成10年に工事をし
て少し作りなおしたそうです。でもその時に
はくのおじいちゃんか、梁だけはのこるよう
に大工さんに頼んだそうです。どうしてのこ

れたのか、おじいちゃんか、人はしんじや。てるか
ら聞くことができません。ぼくは（この家の
昔の場所を少しでものこしておきたい。そし
てこの昔の家に来る人に昔の家を見せて昔
の家を知ってほしい）とおじいちゃんか、考
えたのかなと思いました。

梁をおじいちゃんか、のこしてくれたから、
今昔の家を見ることが出来ます。昔の物は
今はない物もあるけれどこの家の梁だけは、
今も昔もずっとあります。ぼくはそれを見る
ことができてうれしです。

それから、これからまた100年つづいてほ
しいです。今島田に来た時はどうさんで梁
をこし、ふいてあげたいです。

高学年の部

甲・静岡ブロック モクセイ賞

静岡県 佐藤 綾音さん

木と共存するといふこと

木と共存するといふこと

佐藤 綾音

木はすごい。机やタンスなどの家具、おわんや箸などの食器、ピアノなどの楽器へと、色々なものに変身して私たちの生活を支えてくれる。木は、私たちの身の回りにあって、便利なもの、ぐさいにしか考えていなかった私は、今では木の大切さを学び、木を守りたい。木は、今では木の大切さを学び、木を守りたい。木は、今では木の大切さを学び、木を守りたい。

思ったのは、五年生に行った自然教室の時だった。

自然教室では、私たちは多くの時間を外で過ごした。そのとき、豊かな自然に包まれ、さわやかな気持ちになった。また、なんだか落ち着くようなきれいな空気の匂いもした。二日目には学級の森に行った。入るたびに、風が、自然の中へようこそ。と、言っているように聞こえた。森には、一面に緑が広がっていた。普段は見えないような大きな木や、下

にほっかりと穴か空いた木を見たり、実際に葉っぱの匂いとかいじりた。普段は見えないような形の木がたくさんあって、どうしてこんな形になったのだろうと興味深くなった。自然教室を通して少し森林に興味を持ち、大切さを考えるようになった。

木について勉強しておもしろいことがある。それは、二酸化炭素を吸収して、地球温暖化を防ぎ、酸素を出すということだ。木が酸素を出してくれることで、私たちは生きていける。それを知って、木に感謝しなければならなかった。

人間はだれもか豊かな暮らしを望む。人間は道具や燃料として木を利用したり、住む場所や畑を広げるために木を伐採してきた。伐採するのが悪いのではなく、その後木を植えないのが悪いと思う。切った植えての繰り返しで森は生き続けるから。木と人間は共存しなければならない。生き物のすみかになり、騒音

を防いだりと、私たちはただでなく、他の生き物の暮らしも豊かにしてあげる。人は木と共存してこそ人間の、動物の、植物の豊かな暮らしが成り立つと思う。だからこそ木と大切にしなければならぬ。

私は、自然教室の経験を通して森林の素晴らしさに気づき、大切さを学んだ。そこでこれから森林を守るためにやりたいことが二つある。一つは、責任ある管理された森林、かど作られた製品には、マークというものが

あることを知ったので、どんなものにマークが描かれているのか探してみたいと思う。二つ目は、十月八日に木を守るためにはどうしたらよいのかについて考えたいということ。十と八を漢字で書いて組み合わせると、木という字になるから、木の目と言うらしい。この二つのことに取り組みしたい。小さなことだけれども、それを実行することが大切だと思ふ。これからの森林を私たちの手で守っていくために。

低学年の部

中部ブロック ハナノキ賞

愛知県 神谷 昌克さん

ぼくたちの周りの木

ぼくたちの周りの木

神谷 昌克

ぼくのまわりには木で作られた物がいろいろあります。たとえば、もくくろしんじょうです。外から見るともくくろしんじょうです。他にもあいち県民の森の展示館が、天井も木で作られています。ぼくの家も柱も天井も木で作られています。勉強づくえやダンスを木で、家の中にも木で作られた物がいろいろあります。ぼくは木で作られた物や木の役わりについて調べてみました。

昔から、家やまや神社は木で作られています。今みたいにコンクリートや鉄ははいけれど、昔の人は木を組み合わせて大きな物を作っていました。ほかにも昔は水田の周りをかこぶように木の板が埋めこまれていました。お米を育てるために水の通り道をあき道を作るためです。他にも、そうこのうぐい、食器などいろいろな物を木で作られ、昔の人の生活に役立っていました。

他にも、木にはいろいろな役わりがあります。

一つ目は、水を育て役わりです。森林の土が雨水をすくって、川にながしてくれるから、ぼくたちが水を使うことができます。

二つ目は、土砂崩れを防ぐ役わりです。森林の土が、雨水をすくって、木の根が、エヤ石を止めて、土砂崩れを防いでくれます。

三つ目は、風や砂を防ぐ役わりです。海の近くに植えられる木は、強い風や、砂が

う、田んぼや畑、家を守る役わりをしています。

四つ目は、ぼくたちを元気にしてくてる役わりです。木は田んぼで遊んだり、さん歩したりすると、気分が落ちついて、元気にしてくてる役わりをしています。

ぼくは、昔の人が木を使って自分で作った、たてたりしているのがすごいなあと思いました。いまみたいに、鉄やコンクリートがない時代でも、昔の人は一本の木を使って、

細かい物を作ったり、組み合わせで、大きな物を作ったり、木がいろいろな物に人化するのがすごいなあと思いました。

そして、木は物を作るだけでなく、水を育んだり、災害を防いだり、ぼくたちの生活に、役立っていることを知りました。

ぼくの住んでいる所には、田んぼが山で、木がいっぱいあるけれど、木がなくなると、ぼくたちの生活がなくなるので、大切にしたいと思っています。



愛知県 広沢彩華さん

自然にやさしい木

自然にやさしい木

広沢 彩華

わたしは、木でできた物はどのくらいあるのか？ 気になったので、調べてみました。すると、おどろくほどありました。家、紙、テーブル、食器、楽器、羽子板など、たくさんの種類の物がありました。木から作ることでできる物は、多いんだなあ、と感心しました。

また、木はいろいろなところに生えています。わたしはよく行く大きな公園は、木でいっぱいです。わたしは、木にとま、ている鳥を見て、木は、生き物を使うのにとってもべりな物だなあ、と思いました。鳥は、てきにおそれた時などにすぐにはげられるし、巣を作ればそこに住むことができます。虫も木の中に住んだり、じゅえさをすったりできます。木は人間の役にた、て立ちます。家をたてたり、道具を作、たり、物を作ることだ、てできる木はすこいと思います。

わたしのおはあちゃんの家は、木でできています。家のさいり、うの木は、お母さんのおじいちゃんか自分でえらんだ物を買、て来て、大工さんとい、し、にたてた家です。わたしはそれを聞いた時、ひ、くりしました。お母さんのおじいちゃんか木を買、たの？ すごい！ あんな大きな家をたてるのは大変だ、たと思うけど、かんは、つてくれたんだな、と思いました。家は、お母さんが生まれる前にたてていたので、少し古い感じがしますが、

四十五年くらいた、た今でも、家はじ、うぶで長持ちしています。

おはあちゃんの家は、木で作、てあるということが、すぐにわかります。えんがわやし、うじも木で作られています。おはあちゃんの家、のえんがわで木の温かさを感じながら本を読んだり、みんなとし、べ、たりするのはとても良い気持ちです。木だから夏はすずしく、わたしはとても気に入っています。小さいけれど、庭にも木は生えていて、虫がよ

く集ま、て来ます。虫の鳴き声を聞いたたり、観察したりできます。それが楽しくて、木は良いなと思います。

わたしはもし家をたてるなら、木の家にしたいです。理由は、おはあちゃんのような気持ちで良い家にしたいからです。

木は、自然災害をふせいでくれたり、二酸化炭素を固定してくれくれます。そして、き、た後も固定し、つけ、新たに植えることでまた二酸化炭素をさ、うし、うしてくれくれます。な

ので、木は、自然にやさしいんだな、と思いました。

低学年の部

近畿ブロック 北山杉賞

京都府 山川輝良里さん

私の大好きな木

私の大好きな木

山川 輝良里

私は木が大好きです。幼いころは木のおもちゃで遊んでいました。家の中を見わたすと木で作られた物であふれています。木の感触からはやさしさを感じるし、香りからはすがすがしさを感じます。木はいつも私を温かい気持ちで包んでくれているようです。

私の庭にはシマトネリコの木が三本植えてあります。葉がよくしげり、みきも太くなっ

てきたので鳥がたくさん遊びに来るようになりました。この夏はくわ形虫まで飛んで来てくれました。はこ、シジユウカラ、イソヒコドリなど木のおかげで鳥の観察もできるようになりました。その中でも私が印象深いのはすずめの巣作りのことです。

昨年、すずめがシマトネリコの前の電気メーターの中に巣を作り始めました。ワラや枯れ草をその中に運んでいたのです。私は電気メーターの中での巣作りは大変だと思い、木

で巣箱を作ってあげようと思いました。

木工用の木材を買ってきて、巣箱の大きさを考えたり、くぎをうつたり、組み立てたりするのがとても楽しかったです。完成したらそっと取り付けてみました。はいめは、はいかいしていたすずめも巣箱に入ってくるようになりました。

それから日がすぎればらくたつと、ひなの声が聞こえるようになりました。それまで巣の中の様子が全然わからなかったので小さい鳴き声が聞こえた時はとてもうれしくて胸がいっぱいになりました。

それからは親鳥はシマトネリコのみまにとまって虫をつかまえたり、ひなにエサをあげたりして、いそがしそうにとび回っています。ひなは大きな声で鳴くようになり、体の大きさも親鳥と変わらなくなってきました。それでもまだ、口を開けて親鳥にエサをねだる姿は可愛いかったです。

楽しくそんな様子を見ていた時、ひな鳥た

ちが飛ぶ練習を始めました。巣箱からシマトネリコの木へ何度も往復しています。下の枝から上の葉へジャンプもしています。そして日中は巣箱から出てシマトネリコの枝に止まり、遊ぶようになりました。羽を大きく広げて楽しそうに飛んでるすずめを、木はうれしそうに見守っているような気がします。

今、シマトネリコの枝で遊んでいるすずめたちを見てみると、巣立、たひなが帰ってまてくれたと思い、うれしくなります。

すずめが巣作りを始めたように、木は鳥や生物たちのすみかであり、いいいの場所でもあり、命が育まれる場所であることを私は知りました。私の家も木で建てられています。

私はこの作文を書きながら、木が私たちの生活に欠かせない多くの役わりを果たしていることに気付きました。これからは木に感謝し、木を大切に、木についてもっと深い知しを得るために学ぼうと思います。



兵庫県 小中 香凜さん

「私の友達しろちゃんは、ふしぎな木」

「私の友達しろちゃんは、ふしぎな木」
香川県に、私のおばあちゃんの庭には、いつも友達が集まっています。名前は「しろちゃん」。ふしぎな木です。なぜ「しろちゃん」というと、私が小さいころ、白くてかわい
い花をいっぱいさせていたからです。
「しろちゃん、私となかよくしようね」
と言うと、しろちゃんも
「うん！なかよくしようね」
と言って、くれているみたいでした。
5才の時に、私がしろちゃんの下で泣いて
いると、頭になにかが落ちてきたような気が
して顔をあげると、しろちゃんの白い花びら
でした。
「かりんちゃん、どうしたの？なかないで、
と言っているようでした。冬なのに花びらが
とてもあたたかかったような気がします。
1年生の時、私は、弟と妹といっしょにし
ろちゃんに会いに行きました。木登りきょう

そうをしたり、やらし。遊びをしたり、木
のすきまに、太い木の枝をはさんで、ひみつ
ぎを作ったりして、思い、ぎり遊びました。
しろちゃんは、
「楽しいな、も。とも。と遊びようよ」
と葉をふるわせて喜んでくれているみたいでした。
去年の冬、しろちゃんに会いに行くと、
「あ、！なんかへんだ、いつもとちがう」
とお。としろちゃんの体にさわりました。す
ると、木がグラグラして、今にもたおれそ
うです。そして、しろちゃん泣いているよう
に見えました。私は思わす
「おばあちゃん、大変大変！しろちゃんかた
おれそう。死んでしまう」
おばあちゃん、
「そうなんよ。だから庭しさんにどうしたら
ええか聞いてんよ」
と言いました。私はとても悲しくなりました。
そして、神様をお願いしました。
「どうかしろちゃんを助けてください。元気

で長生きできるようにしてください」
私は今、四年生です。しろちゃんは、根っ
この横に太いそえ木をしてみらい、今年も元
気に白い花をたくさんさせています。
夏休みに入り、私は、おばあちゃんの家
にきています。台風が来ると、風が強く
雨戸がガタガタ音を立てて少しこわいです。
しろちゃんを見ると、強い風の中、大きくゆ
れながらも足をふんばって、体をささえてい
ます。私は心の中で「がんばれ、しろちゃん」
とさげすむし、しろちゃんも、「だいじよ
うぶ、こんな事で負けないよ」と大きく手を
はたしているように見えました。
しろちゃんとの心の会話は、私に元気や勇
気をあたえてくれます。そんなふしぎな力を
持っているしろちゃんは、私の自慢の友達
です。
私は、大人になってもしろちゃんとお話を
できる友達でいたい。だから、心のきれ
いな大人になろうと思います。



広島県 切川 琉誠さん

みんなのおうち

みんなのおうち

切川 琉誠

「チュンチュン、ツクツクオーラ、ジー、ジー、
ー、ビビ、ビビ、ビビ。」

ぼくは、こんどやどうぶつが大すぎです。
そして、そのぶんは木にあつまっています。

あたしが春になると、だんだんと木のま
わりがにぎやかになってきます。何で生々も
のたちが木にあつまってくるのでしょうか。
それは、木がやさしいからだと思います。

まじしくて、あつり太やうの光がこりつげ
てきて、すずしき日かげを作ってくれます。
とび回ってつかれたトリたちも、えだにとま
らせてくれて休ませてくれるからです。

たくさんさんのえだやばが生まれているので
子そだての場しよにもなっているテレビで
見たことがあります。

つぎに、木は強いからだと思ひます。地め
んの中へくまでいふななをば、て台風
が来ても、地しんがきても、おれたりたおれ

たりすることなく、どしどしと立ちつづけて
います。

ぼくがすむ家も太くて大きな木にささえら
れています。がんばりやうな木のはしらは、と
てもいいにおいがするし、家の中をあたか
くしてくれます。ぼくがようちえんに入っ
た壁が半年毎に、お父さんがせの高さをはし
らに線を引いてきろくをのこしてくれて、一
つ前の自分とせいくらべをするのが楽し
みです。

しかし、そんなやさしくて強い木を、人間
は自分たちの生活をよくするために切ったり、
空気をよごしたりしてきづつけていることを
知りました。このことを教えてもらったのは、
大きな自ぜんさんがいにあつた後のことだ
す。へいせい三十年、ぼくがすんでいる県市は
大雨がながいにおいしました。だきのような大
雨が長くつづいたことで、道や緑が、く
すれてきた土しやにふさがた、食べものやの
みものが町のおなからあふという聞になくな

にやさえてくれていたんだよ。

お父さんが教えてくれたこのことを、しつ
かりと心にとめて、木をはじめとした自ぜん
をまもっていかねければなりません。それは
ぼくたちの生活をまもることにもつたがって
いくことになると思ひます。たつた一つしか
ない地球うにすむみんなのいのちをまもる
のは、ぼくたち人間のやく目だと思ひます。
これからみんなのおうちを大切にしたい
です。



岡山県 笠井菜摘さん

わたしのシンボルツリー

わたしのシンボルツリー

笠井 菜摘

わたしの家のとなりには祖父母の家があります。その玄関と玄関の間に、1本の大きなカツラの木があります。

その木は三十年ほど前に植えたそうで、高さは2階の屋根ぐらゐまであります。大きな葉はわたしの手のひらより大きいものもあります。

夏にはたくさん葉が生いしげり日差しを

さえぎ、てくれまう。木の下に入り雨どりをすることもあります。また、夏の初めには、セミが木の根元からたくさんでてきて夜中に羽化が見られます。

秋には葉が紅葉して、木全体が黄色にそまります。その後葉が落ち、庭一面葉っぱのじゅうたんになります。

春がやってくる、小さい赤い花がさいたと思、たら、新しい緑の葉がすこゝ早く出てきて、気づくとまた葉がたくさんしげりて

います。

庭では、もう一つ楽しみがあります。特に

わたしが毎年楽しみにしているのは、6、7、8月です。6月にジュンペリの実がなり、それが終わるとブラクベリー、ブルーベリーの順に実が収穫できるからです。どれも甘酸っぱくておいしいので、私たちもわたしも保育園や学校に行くときたに、3個口に入れて行くこともあります。ブルーベリーの皮で、

わたしの親指の爪よりも大きなものはとても

よくうれていて、とても甘くて幸せな気持ちになります。収穫してカゴに入れる時には食べながら収穫するので、初めはなかなかカゴにたまりません。カゴいっぱいに収穫しても家族みんなが「甘いね」「これちよ」と酸っぱいね」と食べていくとあ、と言う間に無くなってしまう。

これはわたしが小さいころから毎年続いています。庭の木はいつでも四季を感じさせてくれ、わたしに元気をくれます。祖父母が植

えてくれたこの木を、これからも大事にしていきます。

低学年の部

四国ブロック マツ賞

愛媛県 中川 すみれさん

さるすべりの木のようにせいさん

さるすべりの木のようにせいさん

中川 すみれ

わたしのおばあちゃんは、まつ山で一人でくらしている。

おにわには、いろんな木がうえられていて、あそびに行くと、いつもちがう花がさいている。

夏休みに行くと、わたしがたねをあげた朝がおの花もさいていた。

おとまりをしたつぎの日、おばあちゃんに

お昼ねにさそわれた。

「じいちんのふつだんの前にねこうふと、さるすべりの木がとってもきれいに見えるんですよ。」

わたしは、たたみにゴロンとねころんで、まじの外を見上げてみた。

立っている時には見えなかった、さるすべりの木の先にさく、かわいいピンク色の花がきれいに見えた。

「わあ、ほんとや。」

フリフリのかわいいピンク色のドレスをきた、ようせいさんが、たくさんいるみたい。

ちよとかせにゆれて、すごくかわいい。

おばあちゃんは、夏になると朝さんぽをしとかえたら、いつもふつだんの前にゴロンとして、さるすべりの木を見ながらうとうとレているみたい。

わたしも、ゴロンとねころんで、さるすべりの木をまい日見上げてみた。

「あ、今日はさのうよりも花がさいている。」

「あ、今日のようせいさんは、ピンクのボンポンをふっているみたい。」

「今日もフリフリのドレスのようせいさん、かわいいね。」

さるすべりの木のようにせいさんをゴロンとしながら見ていると、そよそよふくかぜが、気もちよくわたしもうとうとレしてしまう。

おばあちゃんのいえでの夏休みがおわってわたしはおうちにかえるけど、さるすべりの木のようにせいさんは、フリフリのかわいいド

レスで、おばあちゃんをたのレませてあげてね。

そして、おばあちゃんがさみしそうだったら、ピンクのボンポンをフリフリうって、おうえんしてあげてね。

つぎにおばあちゃんに会いにきた時には、さるすべりの木のようにせいさんは、ピンクのドレスをもうぬいでしまっているかな。

いつもはツルツルの木だと思っていたのに、夏にだけ会えるさるすべりの木のようにせいさん。

わたしもたたみにゴロンとして、会いに行くよ。

また来年の夏休みにおおうね。



愛媛県 矢野 桜さん

私の成長を見守ってくれる桜の木

私の成長を見守、てくれる桜の木

矢野 桜

私には、私の木があります。

一寸にな。た春に両親が、これからの人生を

見守、てほしい、というねがいをこめて植え

た桜の木です。

住たく事情で、祖父母の家に植えられたソメイ

イヨシノと陽光桜の二種類の桜の木は、私と

ともにすくすくと大きくなりました。

ソメイヨシノは、えだを大きく広げて二階

の屋根をはいこすほどの高さまで成長してい

て、春に、かわいいうすいピンク色の花を咲

かせくれます。

反対に陽光桜は、えだを大きく広げずほ、そ

りしていて、春に、きれいなこいピンク色の

花を咲かせてくれます。

どちらにも、こいがある。大好きです。

桜が咲くところになると祖母から、

「桜が咲いたよ！」

と、連らくかきます。この連らくかくと、

毎年、桜とい。し。に写真をとります。

いつの間にか、わが家のこうれい行事にな

っていて、三月になると、桜が咲くのが楽し

い。桜をわけています。

祖母から母のけいたいに送られてくる桜の写

真を見て、今週末にまん開になるな、という

時に、なるべく家族でかけつけます。

ば、ちりまん開の時にけいたいこともあれば、

七分咲き、八分咲きの時がある。たり、用事が

できてちりぎみにな。てしま。た年もありま

した。

写っている人物にも変化がある。て、父が仕事

の都合でいない年もある。いとこのお兄さん

たちが写っている年がある。たりと毎年様子

がちがう写真になります。

しかし、変わらないことがあります。

桜と私とい。し。にかならず写っているのは、

祖父母です。まん中に私、両はしに祖父母と

いつホジッ。んは変わりません。

私とだ。こしながらやさしく笑う祖父母。

私の両手をにぎりながらやさしく笑う祖父母。私のかたに手をおき、やさしく笑う祖父母。桜の木も、やさしく私達を見守。ているようです。

いつまでも、変わりなく祖父母とい。し。に、笑顔で写り続けることができたらいいなと、思います。

これから、春になると私の桜の木に会いに行。て写真をとりたいと思います。

低学年の部

九州・沖縄ブロック
クスノキ賞

熊本県 小川 優月さん

木があるということ

木があるということ

小川 優月

わたしのおじさんに、木をあつめて物を作る人がいます。海がすぎな人で、サーフィンをした帰り道に落ちている木を拾って、自分か思いつく、すぎな形へぞ、かにかえています。あたしのお母さんも木がすぎで、木のぬくもりにいやされる。いつも言っています。このいみが、わたしには分らないか

「たけど、おじさんの物作りをするすがたを見るようになってからは木のにおいも、ぬくもりもすぎになりました。」

「どうして木なの」と、おじさんに聞いたことがありません。サーフィンへ行くと、いつも木がきしにながれ着いていて、この木で何か出来ないか。と思ったのははじまりで、ただのぐみの一つでしかなく、た物でも大事にしたい。というおもいが物作りへとつながったそうです。その話を聞いて「リサイクル」

という言葉がうかびました。今、わたしたちの身の回りにある物はリサイクルの物がたくさんあります。おじさんもその一つを作っている人だと思いました。あたしも物を作ったりするのはすぎですが、おじさんのように一から自分で考えた物を作ったことはないの、物作りをしているすがたがか、こよく見えました。

おじさんの物作りを見るようになってからは、おじさんを見ることが、家もダンスも本なども木で出来ていて、木にかこまれてく

していることに気づきました。木のかおりはしないけれど、その中にいるだけであん心するし、作ってくれる人たちがいるということにかんしゃしました。そういう人たちのことを「しよく人」とよぶことを知りました。お

母さんの口ぐせで「自分に出来ないことを出来る人は、そんけいする」と、よく言っています。わたしも同じで、しよく人の仕事は大へんだけれど大事なこともなんだと感じました。もちろん身の回りにある物は木だけではない

けど、どれも一つの「ぐいり」うからでぎいて木というだけなのに、やさしい気持ちになるからふしぎです。おじさんが物作りをしている時は、使ってくれる人のことを考えるそうです。あたしも何か作ることがあれば、その人をしあわせな気持ちにしたいです。

しよく人のゆめは、まだきめられないでいるけど、あたしが感じたみたいに木があることで、すてきな物と出会うことが出来る楽しさを、もっとたくさん山の人に知ってほしいと思

いました。そして自ぜんの大せつさ、一つの物を生み出す大へんさを知って、これからは自分の場所があることに感しをしながら、作ってくれている人のおもいを大事にしていきたいと思います。

高学年の部

九州・沖縄ブロック
つつじ賞

福岡県 濱野 陽咲さん

「私の気持ちとパキラの木」

「私の気持ちとパキラの木」

濱野 陽咲

わが家には、私が生まれたときからパキラという木があります。生まれてから11年間のわが家のパキラは元気に育っています。ですがその11年の間にはいろいろなことがありました。その一つが引っ越しです。私の家は引っ越しがよくありました。もちろんそのたびにパキラも引っ越しに引っこしています。私は引っ越しをすることがとても不安でした。

不安な気持ちや、悲しい気持ちの私の心はまるで、元気のないかれています。木のよう感じました。すると、いっしょに引っ越しをして、いたパキラも引っ越しをした。たいていシンクで葉が落ち、かれています。偶然だけまわりの木の心の中を表現しているように思いました。引っ越し先では、私の新しい生活が始まりました。新しい学校はとて不安だったけど、この学校の友達もみんな優しく、すぐ仲良くなり、今の不安はどんどん消えていきまし

た。私の心はいきいきとした木のように感じた。すると葉が落ちていたパキラの木もどんどん新たな芽かでて元気になっていました。引っ越しのときは、毎回そのようなパキラは私の心の中を表現しているような変化をします。私は、自分の気持ちのようパキラを見ている。と、とても安心できます。引っ越しで不安なのは私だけじゃないと教えてくれたからです。私が新しい引っ越し先で笑顔で過ごせるように、たのび、パキラのおかげでもあります。

ます。なぜなら私の心により強く、たくわえらるると感じたからです。そして、もう一つ、パキラは一度折れた枝も土にうえると、またあの枝と葉をのび、葉が落ちても水をやれば、またいきいきと葉をつけます。とにかく、わが家のパキラは生命力が強く、力強くせい。いっぱい生きているんだ。と感じさせられます。そんなパキラを見て、私は強いことや不安なことがあってもパキラのようになりたくて、くじけずに生きていきたいと思いました。そ

して、パキラが私の心を笑顔にしてくれたように、またせい。はいがんばって生きようと思わせたように、私も周りの人を笑顔にしたり、元気を与えたりすることかできると、これから私もパキラも周りの人たちも元気に過ごせたらいいなと思います。

審査員の講評

イラストレーター

はせがわゆうじ氏



毎年、思うことですが、自分が小学生の頃はこんな作文、とても書けなかつたなあ……と。笑
今回も全国からそんな力作がたくさん集まりました。

全員、木の名前が入った三姉妹、素敵なご家族を想像してしまう「おじいちゃんのこだわり」。

薪の中に冬眠するヤモリや虫をはらって逃がしてあげる「わたしとおじいちゃんの木」優しさが伝って来ますね。

実は桜は弱ってきている事を知った「桜守活動」これからも桜をまもりたい……にはとても大切なことが丁寧に説明されています。

「ウッドブロックのえんそうかい」は音の聴こえ方の表現がとても新鮮でした。

夜おそくまで本を読んでいいルールを作る「ゆめのツリーハウス」は私もわくわくしてしまいました。

空き家問題に触れ、住む人がなくなるとたちまち彩を失い、そこだけ時間の止まった空間のようにポツカリ取り残されてしまう……という表現がすばらしい「家と未来と私」。

木には第三の人生があるという「思い出はエネルギーになる」、本当にそのとおりだと思います。

想像から絵を描くことが好きだ、という「木がつなぐ素敵なプロジェクト」はとても豊かな想像力で、映像がリアルに浮かびました。

その他、どの作品にもキラリと光るものがありました。

どれも受賞してもおかしくないような状況の時に、決め手はやはり読んだ人の心を動かすかどうかだと思います。

ほんの二行、ほんの一言で人の気持ちは動いてしまう気がします。

それは意図的に作られるものというより、書いた作者の人としての何か……優しさとか純粹さとか、隠しきれない何かが出てしまった時かな、となるとなく思います。

ほんとにみなさんの作品には、いつも刺激をいただきありがとうございます！とこちらから言いたいです。

ぜひ今後の作品も期待しています。



南雲国語教室主宰

南雲 ゆりか氏

見慣れたものやちょっとした経験を自分ならではの感性を働かせて深く掘り下げる

……簡単なことではありませんが、見事にそれを成し遂げた作品が並びました。審査は大接戦で、審査員がそれぞれの「推し作品」について熱く語る展開となりました。

「わたしとおじいちゃんの木」はレトリックが光っていました。まず、薪ストーブは「りょうりじょうず」だけれど「まきをたくさんたべる」というユーモラスな擬人法。薪が冬眠中の生き物の「おふとんになっている」「花さかじいさんのように」畑に灰をまく、などの比喩もユニークです。文体もきびきびとしていて小気味よく、はつらつとした印象の作品でした。

『木』が『木々』になると生まれる魔法』は早朝のランニングコースから発想した作品。「これでもかというほどに植物の多い地域」を走るとリフレッシュできるのは、なぜだろうと思いを深めていきます。そして、「天敵とですら生態系を築く中で協力しあっている」植物の生き方に、「人間も学べるのではないか」と述べます。木から森、生態系、人間の生き方へと視点を広げているところに、大人びた知性を感じました。

高い文章力を発揮していたのが「ひいじいちゃんからの贈り物」。60字×80字くらいの長い一文を連ねていますが、語順がよく整理されており、すんなりと伝わってきます。また、「(祖父は)ひたいにうつすらと輝く汗を、クタクタになったタオルでぬぐいながら教えてくれた」「ぼくの何倍もゴツイ手を広げて見せてくれた」など描写が丁寧です。様子がありありとイメージできるだけでなく、祖父の実直な人柄までもが目に見えるようでした。

他にもウッドブロックを演奏した喜び、人から人へと受け継がれる重厚な将棋台、木の家への愛着、自然を守る活動など、心に迫る作品がたくさんありました。折にふれて読み返してみなさんの思いを心に留めておきたいと思います。ありがとうございます。



国土交通省 住宅局 住宅生産課
木造住宅振興室長
原田 佳道 氏

自然の木、住まいや建築物、机や道具といったように題材となっている「木」は多種多様で、また、その木への思いも作品によって様々で、改めて、こんなにも木は身近なものなのだと気づかされながら、読ませていただきました。

低学年の部の国土交通大臣賞は「おじいちゃんのこだわり」です。「木は日本の文化じゃあ」から始まる、おじいさんの木へのこだわりがあふれ出ている作品です。おじいさん設計の木の家の細かなデザインや、木でいっぱい庭と

そこにある木でできた「秘密基地」(茶室でしょうか?)から見える四季の風景など、おじいさんの木へのこだわりが詰まった住まいであることがとてもよく表現されていますし、そのこだわりをちゃんとわかっているんだな、と感心させられます。さらに、三姉妹の名前に木の名前が入っていて、その名前と同じ庭の木を「わたしたちの木」と呼んでいたりと、おじいさんの木へのこだわりが家族みんなにも温かく受け継がれていつている、そう感じさせる素晴らしい作品です。

高学年の部の国土交通大臣賞は「木のある暮らし」です。日本の建築物で木の使われ方を通して、木造の建築物の良さや木を使うことの大切さをしっかりと伝えている作品です。作品に出てくる建築物は、縄文時代の住居、現存する世界最古の木造建築物である法隆寺、おじいさんが利用している木造の講堂であり、まさに、遠い昔のものから身近なものまで、日本の建築物に木が使われてきたことがよくわかる構成になっています。また、法隆寺など昔の建築物での木の使われ方がよく描かれているのに加えて、その木を使った昔の人々の考え方にも想いを巡らせており、最後には、木を使うことが「日本の文化」であり、「受けついだ文化を守っていかなければならない」と強い決意も示されています。木を使う「文化」の大切さをストレートに語りかける力作です。

二つの作品は、それぞれテイストは異なりますが、どちらも木を使うという日本の「文化」の良さ、大切さを感じさせてくれる作品です。そのほかの作品も、身近にある木への想いをそれぞれの文章で表現した素晴らしい作品ばかりです。今回、作文を書かれたみなさんが、今後も木を身近に感じながら健やかに成長していただければと期待しています。



独立行政法人 住宅金融支援機構

マンション・まちづくり支援部 技術統括室長

嘉藤 鋭氏

今年も木のあるくらしを作文にして、数多くの作

品が届きました。皆さまの作品を読んでいると、木のあるくらしの中で体験したこと、感じたことに大変感動していることが伝わってきて、その情景が鮮やかに頭に浮かび、木のあるくらしがとても暖かいものであると実感しました。応募いただいた作品は、いずれも力作で素晴らしい作品ばかりでした。

低学年の部の住宅金融支援機構理事賞「わたしと木のピアノ」は、いえは木でできていて匂いがとても良いこと、木のおままごとのセットで遊んだこと、木でつくられたおはしやスプーンで食事をするなど、木のあるくらしの暖かさを見事に描いています。木で作られているピアノはとてもやさしく丸い音を奏でます。おうちの木の仲間たちが笑顔で見守ってくれるピアノの音を聞きたくなる素晴らしい作品です。

高学年の部の住宅金融支援機構理事賞「ただ今新築中」は、新しい家を建てることへのワクワク感、大工さんに家の中を見せてもらったうれしさや感謝の気持ちが見事に描かれています。また、祖父から木の家の良さを教えてもらったりして、家の工事が進む中で多くのことを学んでいることが分かります。これから良い匂いのする木の家で、楽しく、暖かく暮らしていくことを予感させる素晴らしい作品です。

作文は、作文用紙を通じて作者の思いが読者に伝わります。作文用紙に書かれた文字一つ一つが作者の思いを届け、大きな感動を与えてくれます。素晴らしい作文を、これからもずっと書き続けてください。そして、素敵な感動が広く届けられていくことを期待しています。



朝日学生新聞社

取締役営業担当 兼 大阪支社長

今澤 勇氏

感じたこと、聞いたこと、調べたこと、さまざまな

体験を通じて多くのことを学びながら、それらを作品の中に、みなさんともいっききと表現していました。どの作品も木のある暮らしの中の日常を、みずからの視点で丁寧に切り取った魅力ある作品ばかりでした。

低学年の部の朝日学生新聞社賞「ウッドブロックのえんそうかい」は、初めての木の楽器に触れてから、演奏会本番にいたる練習の風景が生き生きと描かれています。ウッドブロックという木の楽器の「つるつる・ざらざら」な手触り感、たたく力による「高い・低い」聞こえ方の微妙な違いなど、徐々に楽器となじんでいく感覚がとても丁寧に伝わってきました。演奏会の練習シーンではそれぞれの楽器の音が実際にあちらから・こちらから、リズムを合わせて聞こえてくるような臨場感がありました。

高学年の部の朝日学生新聞社賞「木がたぐ素敵なプロジェクト」は、祖母のお葬式の後、親族でしていた家にまつわる会話のやりとりが印象的です。その「家」を建てる「木の成長」について図書館で調べていくうちに、環境においても木がとても大切な存在であるということを学びます。長い年月をかけて育てた木が、多くの人の力を結集して家になる。なにげない親族どうしの会話から、この木と家の関係は壮大で素敵なプロジェクトだと気づきます。想像力を働かせて当時の風景を思い描くなど、とても表現豊かな作品でした。

今回の朝日学生新聞社賞の2作品は、同じ木でも「楽器」と「家」とテーマこそ違いますが、それぞれ違う角度から「木に感謝する気持ち、木(楽器や家)とともに過ごす時間の大切さ」がとても良く伝わる素晴らしい作品でした。

受賞されたみなさん、おめでとうございます。応募されたすべてのみなさんに感謝申し上げます。

一般社団法人日本木造住宅産業協会 専務理事

加藤 永氏



今年もたくさんの応募をいただき、ありがとうございました。

私は今年から審査に加わりましたが、応募いただいた皆さんの感性の豊かさと完成度の高い表現力に驚かされました。また、自由な発想や素直な思いとともに、気になる問題を自ら調べる熱心さにも感心しました。

木造の住宅や建物はもちろん、様々な木製の家具や楽器、あるいは思い出の樹木や植樹体験を通じた環境問題や防災・社会問題への関心など、実に多様な「木のある暮らし」に出会えました。

そんな中で、日本木造住宅産業協会会長賞は、いずれも、家族の中で世代を超えて引き継がれていく思いを表現した作品となりました。低学年の部の「おじいちゃんの木まくら」は、木の家と家具、そして愛用していた木のまくらを通じて、亡くなったおじいちゃんとの思い出が生き生きと語られています。

高学年の部の「ひいじいちゃんからの贈り物」は、建具屋だった曾祖父から引き継がれた木の家と大工道具や物づくりの技術、そして「教えてもらうのを待つのではなく自ら学ぶ」という教訓を大事にしているという気持ちがあり、とても素直に表現されています。

各大臣賞をはじめとする受賞作にも、祖父母や家族、友人などとの思い出や体験に基づく作品が見られます。木というものが、技術や文化とともに、人と人のつながりにも関わっていることに気づかされました。

この他にも、印象に残るたくさん作品がありました。皆さんの素晴らしい作品に接することができ、大変幸せでした。来年もたくさんの素敵な作品の応募をお待ちしています。

プロフィール

■はせがわ ゆうじ イラストレーター

名古屋市長生まれ。名古屋芸術大学卒。広告や出版のイラストを幅広く手がける。東京書籍国語教科書表紙、名古屋市母子手帳表紙、NHKみんなのうたアニメーションなど色鉛筆でほのぼのとした優しいタッチのイラストレーションで知られる。著書に「もうじきたべられるぼく」「海を見たかったかし」「ふたごパンダのこころコロコロ」文・西島三重子(中央公論新社)他。

■南雲 ゆりか(なぐも ゆりか) 南雲国語教室主宰

東京生まれ。横浜国立大学教育学部卒。横浜市立小学校教諭を経て大手進学塾へ。難関クラス指導と模試・教材の作成を担当した。都内で国語教室を主宰し、「正確に読む力、正確に伝える力」を motto に指導にあたっている。朝日新聞 EduA「国語のチカラ」入試に出た本紹介します連載中。著書に「名探偵コナンと楽しく学ぶ小学国語ドリル 書く力」、「考える力がつく『国語』勉強法(ダイヤモンド社)、監修に「ちいかわ漢字ドリル」(講談社)など。

■原田 佳道(はらだ よしみち)

国土交通省 住宅局 住宅生産課 木造住宅振興室長

■嘉藤 鋭(かとう さとし)

独立行政法人 住宅金融支援機構

マンション・まちづくり支援部 技術統括室長

■今澤 勇(いまざわ いさむ)

朝日学生新聞社 取締役営業担当 兼 大阪支社長

■加藤 永(かとう ひさし)

一般社団法人日本木造住宅産業協会 専務理事

作文コンクール オンライン表彰式



はせがわ ゆうじ
審査員長



国土交通省
山下課長



木住協
市川会長



木住協
加藤専務理事



リモート参加した受賞者の皆さん全員集合 スクリーンショット記念撮影

オンライン表彰式の様子は協会ホームページから
動画でご覧いただけます。

<https://www.mokujukyo.or.jp/lifewithwood/concour/award/>





国土交通大臣賞 低学年の部 五十嵐 柊奈さん
おじいちゃんのこだわり朗読動画



国土交通大臣賞 高学年の部 森田 祥奈さん
「木のある暮らし」朗読動画

受賞者 インタビュー コーナー



参加学校一覧

龍ヶ崎市立馴馬台小学校
つくば国際大学東風小学校
古河市立古河第二小学校
古河市立古河第一小学校
結城市立結城小学校
筑西市立伊讃小学校
筑西市立嘉田生崎小学校
筑西市立大田小学校
筑西市立川島小学校
筑西市立古里小学校
桜川市立大國小学校
桜川市立羽黒小学校
笠間市立みなみ学園義務教育学校
水戸市立五軒小学校
水戸市立浜田小学校
水戸市立稲荷第一小学校
ひたちなか市立那珂湊第一小学校
鉾田市立大洋小学校
小美玉市立小川南小学校
水戸市立上中妻小学校
水戸市立河和田小学校
リリーベール小学校
常陸太田市立誉田小学校
常陸太田市立世矢小学校
常陸太田市立金砂郷小学校
神栖市立大野原小学校
神栖市立須田小学校
石岡市立北小学校
石岡市立南小学校
石岡市立恋瀬小学校
日立市立大久保小学校
高萩市立高萩小学校
小美玉市立堅倉小学校
日立市立久慈小学校
日立市立坂本小学校
宇都宮市立西原小学校
宇都宮市立石井小学校
日光市立今市小学校
日光市立日光小学校
日光市立日光小学校

栃木県

白河市立表郷小学校
白河市立みさか小学校
西郷村立小田倉小学校
西郷村立熊倉小学校
須賀川市立第一小学校
郡山ザペリオ学園小学校
郡山市立守山小学校
郡山市立守山小学校
田村市立常葉小学校
塙町立笹原小学校
棚倉町立近津小学校
三春町立三春小学校
郡山市立芳山小学校
会津若松市立一箕小学校
会津若松市立東山小学校
会津若松市立城南小学校
会津若松市立城西小学校
泉崎村立泉崎第一小学校
矢吹町立矢吹小学校
矢吹町立善郷小学校
本宮市立糠沢小学校
磐梯町立磐梯第一小学校
会津坂下町立坂下東小学校
会津坂下町立坂下南小学校
いわき市立永崎小学校
いわき市立好間第四小学校
いわき市立平第六小学校
いわき市立平第二小学校
いわき市立植田小学校
いわき市立汐見が丘小学校
いわき市立錦東小学校
稲敷市立高田小学校
取手市立桜が丘小学校
利根町立利根小学校
つくば市立要小学校
常総市立玉小学校
八千代町立川西小学校
桜川市立桃山学園
筑西市立長讃小学校
筑西市立村田小学校

茨城県

北海道 札幌市立あいの里東小学校
江別市立対雁小学校
旭川市立雨紛小学校
砂川市立空知太小学校
留萌市立留萌小学校
帯広市立開西小学校
釧路町立別保小学校
青森県 弘前市立北小学校
新郷村立新郷小学校
岩手県 雫石町立西山小学校
宮城県 東松島市立大塩小学校
仙台市立国見小学校
仙台市立将監小学校
富谷市立富谷小学校
富谷市立成田東小学校
大和町立小野小学校
色麻町立色麻学園
仙台市立連坊小路小学校
多賀城市立多賀城八幡小学校
石巻市立中里小学校
涌谷町立月将館小学校
登米市立米川小学校
栗原市立志波姫小学校
大崎市立鳴子小学校
山形県 山形市立第二小学校
山形市立千歳小学校
天童市立長岡小学校
東根市立東根中部小学校
東根市立東根小学校
福島県 福島市立笹谷小学校
伊達市立月舘学園小学校
福島市立大森小学校
福島市立松川小学校
川俣町立川俣小学校
福島市立水保小学校
福島市立佐原小学校
白河市立五箇小学校
白河市立関辺小学校
中島村立滑津小学校
白河市立表郷小学校

ときがわ町立玉川小学校
ときがわ町立萩ヶ丘小学校
飯能市立加治東小学校
入間市立西武小学校
所沢市立牛沼小学校
所沢市立中央小学校
熊谷市立長井小学校
熊谷市立太田小学校
伊奈町立小室小学校
鴻巣市立鴻巣東小学校
鴻巣市立田間宮小学校
深谷市立深谷西小学校
横瀬町立横瀬小学校
深谷市立花園小学校

千葉県

千葉市立鶴沢小学校
千葉市立登戸小学校
千葉市立川戸小学校
千葉市立川戸小学校
千葉市立宮崎小学校
千葉市立星久喜小学校
千葉市立生浜西小学校
千葉市立幸町小学校
千葉市立高浜第一小学校
千葉市立稲浜小学校
千葉市立稲毛第二小学校
千葉市立真砂東小学校
千葉市立真砂西小学校
千葉市立磯辺小学校
千葉市立磯辺第三小学校
千葉市立横戸小学校
千葉市立瑞穂小学校
千葉市立上の台小学校
千葉市立長作小学校
千葉市立柏井小学校
千葉市立都賀小学校
千葉市立稲毛小学校
千葉市立小中台南小学校
千葉市立小中台小学校
千葉市立宮野木小学校
千葉市立千城台みらい小学校
千葉市立都賀の台小学校
千葉市立誉田東小学校
千葉市立誉田小学校
千葉市立椎名小学校

みどり市立大間々北小学校
渋川市立渋川西小学校
東吾妻町立原町小学校
草津町立草津小学校
安中市立秋間小学校
安中市立安中小学校
安中市立原市小学校
安中市立西横野小学校
みなかみ町立月夜野北小学校
みなかみ町立新治小学校
前橋市立永明小学校
みどり市立笠懸北小学校
みどり市立笠懸小学校
さいたま市立大砂土小学校

埼玉県

川口市立戸塚南小学校
川口市立芝西小学校
川口市立慈林小学校
戸田市立新曽小学校
さいたま市立辻小学校
さいたま市立見沼小学校
さいたま市立土合小学校
草加市立八幡北小学校
草加市立八幡小学校
幸手市立上高野小学校
三郷市立新和小学校
越谷市立越ヶ谷小学校
越谷市立明正小学校
越谷市立蒲生小学校
越谷市立大間野小学校
春日部市立幸松小学校
春日部市立備後小学校
春日部市立豊春小学校
春日部市立中野小学校
杉戸町立西小学校
久喜市立太田小学校
久喜市立栗橋小学校
越生町立越生小学校
川越市立月越小学校
川越市立芳野小学校
川越市立今成小学校
川越市立川越西小学校
和光市立北原小学校
志木市立宗岡第三小学校
富士見市立針ヶ谷小学校

日光市立鬼怒川小学校
市貝町立市貝小学校
茂木町立逆川小学校
鹿沼市立菊沢東小学校
鹿沼市立清洲第一小学校
大田原市立佐久山小学校
大田原市立石上小学校
那須塩原市立鍋掛小学校
宇都宮市立白沢小学校
宇都宮市立岡本小学校
宇都宮市立岡本北小学校
宇都宮市立田原小学校
宇都宮市立田原西小学校
高崎市立新高尾小学校

群馬県

高崎市立東部小学校
高崎市立塚沢小学校
太田市立綿打小学校
大泉町立西小学校
邑楽町立長柄小学校
高崎市立佐野小学校
高崎市立寺尾小学校
高崎市立鼻高小学校
上野村立上野小学校
甘楽町立福島小学校
富岡市立小野小学校
富岡市立額部小学校
高崎市立箕輪小学校
高崎市立中室田小学校
榛東村立南小学校
吉岡町立駒寄小学校
前橋市立桃瀬小学校
前橋市立城東小学校
前橋市立時沢小学校
前橋市立柏川小学校
前橋市立大胡東小学校
前橋市立宮城小学校
前橋市立元総社南小学校
伊勢崎市立北小学校
太田市立駒形小学校
太田市立城西小学校
太田市立休泊小学校
太田市立南小学校
太田市立沢野小学校
桐生市立広沢小学校



福井市木田小学校

福井市円山小学校

坂井市立兵庫小学校

山梨県

上野原市立秋山小学校

市川三郷町立市川東小学校

長野県

長野市立古里小学校

長野市立保科小学校

小布施町立栗方丘小学校

長野市立昭和小学校

長野市立共和小学校

小川村立小川小学校

須坂市立森上小学校

中野市立中野小学校

小諸市立美南方丘小学校

上田市立神科小学校

上田市立丸子北小学校

青木村立青木小学校

千曲市立埴生小学校

諏訪市立中洲小学校

諏訪市立豊田小学校

伊那市立美簗小学校

才教学園小学校

富士見町立富士見小学校

辰野町立辰野西小学校

大町市立八坂小中学校

岐阜県

岐阜市立市橋小学校

海津市立下多度小学校

美濃加茂市立蜂屋小学校

瑞浪市立陶小学校

静岡県

熱海市立第一小学校

富士宮市立富士根南小学校

静岡市立葵小学校

静岡市立城北小学校

静岡市立西奈小学校

静岡市立中藁科小学校

静岡市立清水袖師小学校

静岡市立清水穴原小学校

静岡市立清水小島小学校

静岡市立清水三保第一小学校

静岡市立清水不二見小学校

焼津市立焼津南小学校

島田市立六合東小学校

浜松市立曳馬小学校

浜松市立伊佐見小学校

大網白里市立大網東小学校

東京都

江東区立第四大島小学校

渋谷区立加計塚小学校

中野区立白桜小学校

中野区立白桜小学校

板橋区立向原小学校

国立市立国立第八小学校

東京創価小学校

八王子市立南大沢小学校

武蔵村山市立第十小学校

神奈川県

川崎市立子母口小学校

川崎市立上作延小学校

川崎市立中野島小学校

川崎市立菅生小学校

横浜市立子安小学校

横浜市立神橋小学校

横浜市立青木小学校

横浜市立山下小学校

横浜市立鶴見小学校

横浜市立屏風浦小学校

横浜市立今宿小学校

横浜市立今宿南小学校

横浜市立新橋小学校

横浜市立西本郷小学校

逗子市立逗子小学校

南足柄市立福沢小学校

茅ヶ崎市立浜須賀小学校

平塚市立大原小学校

平塚市立旭小学校

新潟県

長岡市立岡南小学校

長岡市立福戸小学校

柏崎市立枇杷島小学校

新潟市立濁川小学校

佐渡市立八幡小学校

新潟市立結小学校

富山県

入善町立上青小学校

福井県

福井市宝永小学校

福井市東藤島小学校

福井市啓蒙小学校

大野市立有終東小学校

小浜市立小浜美郷小学校

福井市足羽小学校

福井市社西小学校

福井市安居小学校

千葉市立おゆみ野南小学校

千葉市立大木戸小学校

千葉市立あすみが丘小学校

千葉市立土気南小学校

流山市立新川小学校

我孫子市立新木小学校

我孫子市立我孫子第二小学校

我孫子市立我孫子第四小学校

我孫子市立我孫子第三小学校

印西市立船穂小学校

印西市立小倉台小学校

柏市立手賀西小学校

印西市立平賀小学校

松戸市立穂台小学校

市川市立平田小学校

市川市立妙典小学校

市川市立百合台小学校

国府台女子学院小学部

船橋市立八木が谷北小学校

習志野市立実花小学校

習志野市立東習志野小学校

習志野市立東習志野小学校

習志野市立実粉小学校

習志野市立鷺沼小学校

習志野市立津田沼小学校

習志野市立大久保小学校

習志野市立袖ヶ浦西小学校

八千代市立村上東小学校

八千代市立南高津小学校

柏市立柏第五小学校

柏市立柏第七小学校

柏市立西原小学校

野田市立山崎小学校

浦安市立浦安小学校

浦安市立日の出小学校

東金市立鵜嶺小学校

九十九里町立豊海小学校

佐倉市立井野小学校

成田市立平成小学校

成田市立公津の杜小学校

市原市立国分寺台西小学校

三育学院大学付属光風台三育小学校

いすみ市立東海小学校

大多喜町立西小学校

豊中市立東豊中小学校
池田市立石橋南小学校
大東市立諸福小学校
東大阪市立森河内小学校
八尾市立八尾小学校
八尾市立上之島小学校
富田林市立喜志小学校
富田林市立富田林小学校
熊取町立北小学校
堺市立英彰小学校
岸和田市立八木南小学校
神戸市立泉台小学校
神戸市立山田小学校
神戸市立藤原台小学校
神戸市立西須磨小学校
神戸市立乙木小学校
神戸市立本庄小学校
神戸市立御影北小学校
宝塚市立長尾南小学校
川西市立けやき坂小学校
西宮市立東山台小学校
姫路市立城北小学校
姫路市立城乾小学校
姫路市立東小学校
姫路市立城陽小学校
姫路市立手柄小学校
姫路市立荒川小学校
姫路市立大津小学校
姫路市立広畑第二小学校
姫路市立網干西小学校
太子町立斑鳩小学校
太子町立龍田小学校
姫路市立糸引小学校
姫路市立白浜小学校
明石市立花園小学校
明石市立錦が丘小学校
加古川市立野口南小学校
加古川市立平岡小学校
加古川市立平荘小学校
小野市立河合小学校
高砂市立荒井小学校
赤穂市立赤穂西小学校
姫路市立中寺小学校
市川町立瀬加小学校

兵庫県

彦根市立若葉小学校
多賀町立多賀小学校
近江八幡市立桐原小学校
守山市立玉津小学校
守山市立玉津小学校
草津市立渋川小学校
草津市立笠縫小学校
草津市立草津第二小学校
草津市立老上小学校
長浜市立長浜小学校
長浜市立南郷里小学校
東近江市立箕作小学校
甲賀市立水口小学校
甲賀市立綾野小学校
甲賀市立貴生川小学校
甲賀市立伴谷東小学校
甲賀市立土山小学校
長浜市立高月小学校
長浜市立伊香具小学校
豊郷町立豊郷小学校
愛荘町立愛知川小学校
愛荘町立愛知川東小学校
東近江市立五個荘小学校
日野町立西大路小学校
京都市立朱雀第八小学校
ノートルダム学院小学校
京都市立西院小学校
木津川市立城山台小学校
南丹市立園部小学校
大阪市立西天満小学校
大阪市立大淀小学校
大阪市立小松小学校
大阪市立清水小学校
大阪市立聖賢小学校
大阪市立玉造小学校
大阪市立五条小学校
大阪市立大江小学校
大阪市立阿倍野小学校
大阪市立磯路小学校
大阪市立築港小学校
大阪市立浪速小学校
大阪市立長居小学校
大阪市立荻田小学校
大阪市立粉浜小学校

京都府

大阪府

浜松市立大平台小学校
浜松市立豊岡小学校
森町立飯田小学校
掛川市立中小学校
新城市立東陽小学校
豊橋市立栄小学校
豊川市立天王小学校
蒲郡市立蒲郡東部小学校
蒲郡市立蒲郡東部小学校
蒲郡市立三谷小学校
蒲郡市立三谷東小学校
蒲郡市立中央小学校
岡崎市立梅園小学校
豊田市立萩野小学校
安城市立安城北部小学校
名古屋市立老松小学校
名古屋市立大和小学校
名古屋市立広路小学校
あま市立美和小学校
あま市立美和小学校
東員町立笹尾西小学校
鈴鹿市立神戸小学校
津市立高野尾小学校
名張市立つつじが丘小学校
大津市立比叡平小学校
大津市立逢坂小学校
大津市立雄琴小学校
大津市立坂本小学校
高島市立新旭南小学校
高島市立マキノ東小学校
大津市立瀬田北小学校
野洲市立祇王小学校
野洲市立野洲小学校
野洲市立中主小学校
栗東市立葉山東小学校
栗東市立大宝小学校
湖南市立菩提寺小学校
甲賀市立甲南中部小学校
甲賀市立甲南第一小学校
東近江市立能登川南小学校
近江八幡市立安土小学校
彦根市立城北小学校
彦根市立平田小学校
彦根市立城西小学校

愛知県

三重県

滋賀県

福岡県

北九州市立新道寺小学校
 那珂川市立岩戸北小学校
 福岡市立東花畑小学校
 宇美町立井野小学校
 志免町立志免中央小学校
 粕屋町立仲原小学校
 粕屋町立粕屋中央小学校
 宗像市立赤間小学校
 福岡市立城浜小学校
 春日市立春日南小学校
 春日市立春日東小学校
 春日市立春日北小学校
 春日市立須玖小学校
 大野城市立大野東小学校
 大野城市立大野南小学校
 筑紫野市立筑紫東小学校
 筑紫野市立山口小学校
 太宰府市立太宰府西小学校
 福岡市立西陵小学校
 糸島市立南風小学校
 糸島市立引津小学校
 直方市立植木小学校
 豊前市立三毛門小学校
 久留米市立京町小学校
 小郡市立小郡小学校

佐賀県

佐賀市立神野小学校
 佐賀市立諸富北小学校
 鳥栖市立基里小学校
 鳥栖市立鳥栖小学校
 嬉野市立轟小学校
 上峰町立上峰小学校
 佐賀市立思斉小学校
 嬉野市立久間小学校

長崎県

長崎市立古賀小学校
 島原市立第三小学校
 佐世保市立港小学校
 松浦市立青島小学校
 平戸市立度島小学校

熊本県

熊本市立秋津小学校
 熊本市立麻生田小学校
 熊本市立帯山西小学校
 熊本市立大江小学校
 天草市立五和小学校
 南阿蘇村立白水小学校

倉敷市立連島北小学校
 倉敷市立第三福田小学校
 倉敷市立第二福田小学校
 倉敷市立第五福田小学校
 倉敷市立上成小学校
 真庭市立河内小学校

広島県

福山市立鞆の浦学園
 福山市立水呑小学校
 三原市立深小学校
 竹原市立仁賀小学校
 三次市立布野小学校
 庄原市立東城小学校
 広島市立原南小学校
 広島市立牛田小学校
 広島市立牛田小学校
 広島市立湯来東小学校

山口県

平生町立平生小学校
 周南市立桜木小学校
 下関市立豊北小学校

徳島県

徳島市内町小学校
 徳島市上八万小学校
 徳島文理小学校
 藍住町立藍住東小学校
 三好市立芝生小学校
 那賀町立驚敷小学校
 鳴門市第一小学校
 小松島市立江小学校
 吉野川市立森山小学校
 美馬市立穴吹小学校
 三好市立東祖谷小学校
 阿南市立今津小学校
 阿南市立平島小学校
 徳島市国府小学校
 石井町高原小学校
 吉野川市立高越小学校
 三好市立山城小学校

香川県

高松市立新番丁小学校
 さぬき市立志度小学校

愛媛県

今治市立常盤小学校
 今治市立鳥生小学校
 大洲市立平小学校
 大洲市立平小学校
 宇和島市立三間小学校
 北九州市立曾根小学校

市川町立甘地小学校
 神河町立神崎小学校
 姫路市立伊勢小学校
 たつの市立香島小学校

奈良県

生駒市立生駒南第二小学校
 奈良市立青和小学校
 奈良市立伏見南小学校
 橿原市立畝傍南小学校
 橿原市立耳成西小学校
 橿原市立今井小学校
 橿原市立今井小学校
 大和高田市立高田小学校
 上牧町立上牧第三小学校
 香芝市立志都美小学校
 大和郡山市立治道小学校
 野迫川村立野迫川小中学校

和歌山県

智辯学園和歌山小学校
 紀の川市立西貴志小学校
 和歌山市立岡崎小学校
 和歌山市立有功小学校
 和歌山市立宮前小学校
 有田川町立御霊小学校
 御坊市立御坊小学校
 橋本市立隅田小学校
 橋本市立清水小学校
 橋本市立橋本小学校
 橋本市立西部小学校
 海南市立大東小学校
 紀の川市立安楽川小学校
 和歌山市立紀伊小学校
 橋本市立応其小学校

岡山県

岡山市立三門小学校
 岡山市立第二藤田小学校
 岡山市立第一藤田小学校
 岡山市立旭操小学校
 岡山市立西大寺南小学校
 玉野市立八浜小学校
 倉敷市立万寿東小学校
 倉敷市立中洲小学校
 倉敷市立中島小学校
 倉敷市立琴浦東小学校
 倉敷市立味野小学校
 倉敷市立本荘小学校
 倉敷市立緑丘小学校

支援学校

青森県 青森県立弘前聾学校
 千葉県 千葉県立船橋特別支援学校
 東京都 東京都立大塚ろう学校 城東分教室
 長野県 富士見町立境小学校
 静岡県 静岡県立浜松聴覚特別支援学校
 愛知県 愛知県立千種聾学校
 大阪府 大阪府立大坂北視覚支援学校
 高知県 高知県立高知ろう学校
 熊本県 天草市立本渡南小学校
 大分県 大分県立別府支援学校
 鹿児島県 鹿児島県立鹿屋特別支援学校

海外

バングラデシュ人民共和国
 在バングラデシュ日本国大使館付属
 タッカ日本人学校
 中華人民共和国
 蘇州日本人学校（小学部）
 エジプト・アラブ共和国
 カイロ日本人学校
 ニュージーランド
 オークランド日本語補習学校

塾

宮城県 あすなろ学院
 兵庫県 自習会テラスコーラ

宮崎県

綾町立綾小学校
 諸塚村立諸塚小学校
 日南市立大窪小学校

鹿児島県

鹿児島市立西伊敷小学校
 鹿児島市立原良小学校
 鹿児島市立南小学校
 鹿児島市立紫原小学校
 鹿児島市立西紫原小学校
 三島村立三島硫黄島学園
 三島村立三島片泊学園
 鹿児島市立東谷山小学校
 鹿児島市立西谷山小学校
 鹿児島市立福平小学校
 鹿児島市立谷山小学校
 鹿児島市立瀬々串小学校
 鹿児島市立犬迫小学校
 鹿児島市立桜洲小学校
 屋久島町立安房小学校
 鹿児島市立名山小学校
 鹿児島市立吉野小学校
 鹿児島市立大明丘小学校
 鹿屋市立輝北小学校
 肝付町立高山小学校
 さつま町立盈進小学校
 伊佐市立大口小学校
 長島町立城川内小学校
 長島町立鷹巣小学校
 鹿児島市立松元小学校
 南さつま市立金峰学園義務教育学校
 霧島市立宮内小学校
 始良市立加治木小学校
 始良市立始良小学校
 始良市立重富小学校
 霧島市立安良小学校
 霧島市立高千穂小学校
 志布志市立有明小学校
 曾於市立月野小学校
 曾於市立恒吉小学校
 豊見城市立長嶺小学校
 久米島町立久米島小学校

沖縄県

<https://www.mokujukyo.or.jp>

木住協

検索



©yujix



一般社団法人

日本木造住宅産業協会

〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 全特六本木ビル WEST棟2階

電話 **03-5114-3010**(代) FAX 03-5114-3020

第26回「木のある暮らし」作文コンクール 入選作品集 ●2023年12月 ●編集・発行／一般社団法人 日本木造住宅産業協会 業務・広報部